

年報

2025 年度



東京医療保健大学東が丘看護学部

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY

Higashigaoka Faculty of Nursing

2025 年度 年報

目次

巻頭言	1
1. 組織図	2
2. 学内行事の概要	3
3. 入試状況	6
4. 教職員名簿	10
5. 委員会活動	12
6. 教育活動	
6-1 学部	16
6-2 大学院	
▶高度実践看護コース	37
▶高度実践助産コース	46
▶高度実践公衆衛生看護コース	55
▶看護科学コース	64
▶博士課程	72

令和7年度 年報 巻頭言

年報発刊から10年という大きな節目を迎え、本学部における年報の最終号の巻頭言を執筆するにあたり、大変感慨深いものがあります。

大学がスタートした当初、「年報」を創刊するという意志を皆で共有し、教育、研究、社会貢献活動という3つの視点から、教員個人の1年間の歩みを記録してまいりました。初めは遠慮もあり、白紙の目立つページに戸惑うこともありましたが、次第に本学の活動が活発化するにつれ、記載内容も充実し、文字数制限を設けるほどの盛況ぶりとなりました。これは、皆様の活発な教育活動や学生を交えた社会貢献、そして教員間の研究活動がいかに豊かに展開されてきたかの証左に他なりません。

近年では紙媒体から電子媒体へと移行し、年報はよりスマートな形へと進化しました。自分たちの取り組みを文字として記録し、いつでも過去の活動を振り返ることができるこのシステムは、教員個人の教育・研究活動のポートフォリオとして機能し、業績の可視化にも大きく貢献しています。ペーパーレス化によるコストや保管スペースの削減といった合理性だけでなく、自らの軌跡を容易に確認できる非常に有意義な仕組みへと成長いたしました。

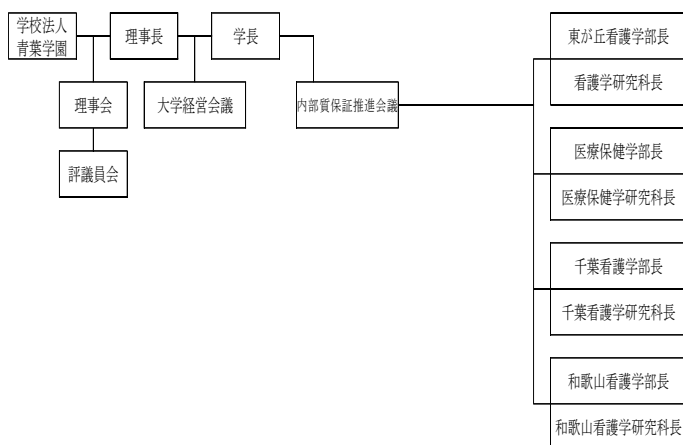
「継続は力なり」と申します。私は例年、皆様から提出される多種多様な活動記録を通読し、それぞれの個性や強み、教育研究への熱意に触れることを何よりの楽しみとしてまいりました。書式や体裁を超えて、そこには皆様の実績に基づく「人となり」と確かな歩みが刻まれています。私がこのように皆様の軌跡を巻頭言を通じて俯瞰する機会是一个の区切りを迎えますが、皆様がこれまで積み上げてきた実績は揺るぎない財産です。

皆様、この10年間、多大なるご協力をいただき誠にありがとうございました。今後はまた新たな形でこれまでの歩みを積み重ね、ご自身の活動をさらに高めていかれることでしょう。皆様の益々の発展と、輝かしい未来を心より期待しております。

令和8年3月25日

東が丘看護学部 学部長 山西文子

1. 組織図

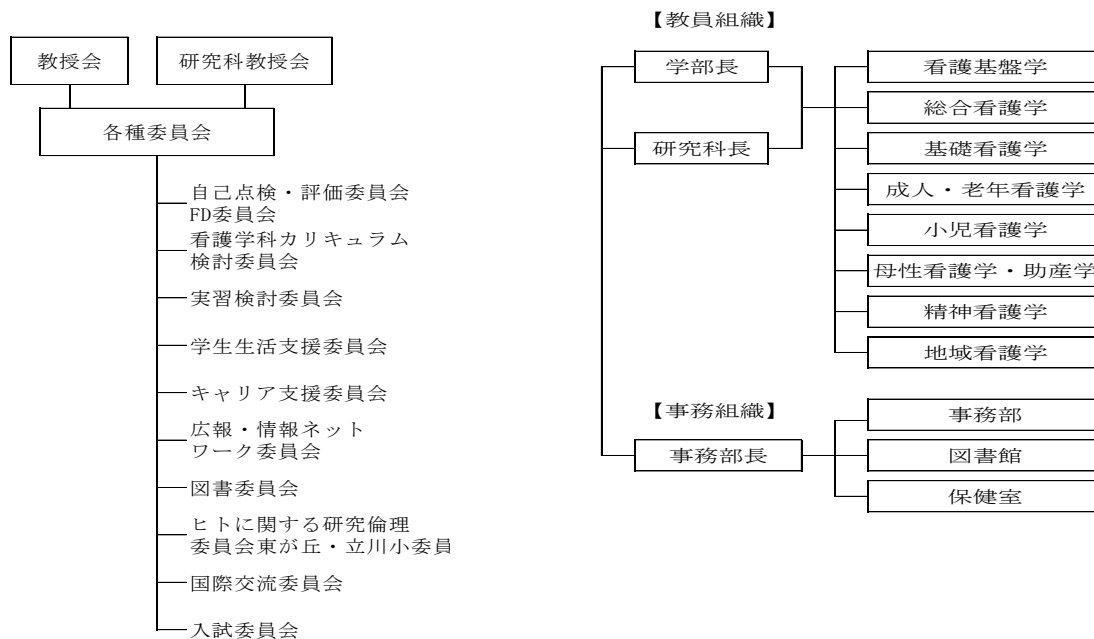


※大学経営会議：年 5 回開催

※理事会・評議員会：年 3 回同時開催

※学部長等会議：年 1 1 回開催

東が丘看護学部の運営組織



2. 学内行事の概要

2-1. 学年暦（令和7年度）

【前期】

4月

- 1日 学内オリエンテーション（1～4日）、
新入生ガイダンス
- 3日 入学式、在校生・健康診断
- 7日 前期セメスター授業開始
- 21日 新入生合同研修
- 30日 コンタクトグループミーティング

5月

- 12日 キャリア開発実習（～5/23）
- 26日 看護学過程展開実習（～6/6）

6月

- 8日 オープンキャンパス
- 23日 看護学体験実習（～6/27）
- 25日 スポーツ大会

7月

- 1日 スカラシップ給付授与式
- 5日 大学院来学イベント/個別相談会
- 22日 看護学統合実習（～8/1）
実習指導者講習会（～11/4）
- 27日 オープンキャンパス

8月

- 2日 大学院来学イベント/個別相談会
- 19日 大学院特別選抜入試

9月

- 6日 大学院前期入試
- 15日 入試説明会（総合型・学校推薦型）
- 22日 各論実習（R8.2/6まで）
- 28日 医愛祭（五反田にて29日まで）

【後期】

10月

- 10日 大学基準協会認定評価（～10/11）
- 12日 総合型選抜入試・目黒区民まつり
- 25日 大学院来学イベント/個別相談会

11月

- 7日 NHO・NC就職説明会（@NHO講堂）
- 16日 学校推薦型選抜入試
- 20日 東京医療センター災害訓練
- 25日 大学院過去問閲覧会（～28）

12月

- 2日 慢性期看護学実習（～12/19）
- 6日 公開講座（田中先生）
- 13日 大学院後期入試
- 17日 学部入試説明会

1月

- 7日 東京医療センター就職説明会
- 23日 一般選抜A日程入試
- 24日 一般選抜B日程入試

2月

- 2日 国家試験壮行会
- 8日 一般選抜C日程入試
- 12日 助産師国家試験
- 13日 保健師国家試験
- 15日 看護師国家試験
- 16日 日常生活援助展開実習（～2/20）
- 25日 面接対策講座
- 28日 一般選抜特別日程入試

3月

- 10日 学位記授与式・修了式
- 21日 オープンキャンパス

2-2. オープンキャンパス

6月8日(日)、7月27日(日)にオープンキャンパスを実施した。参加者は6月92名、7月191名となった。

概要は学部・大学院各コース説明、講義・演習の模擬授業体験、キャンパス見学ツアー、教員・学生・入試広報部職員との個別相談である。R7年度においては東京医療センターの協力を得て、両回とも病院見学会を実施した。3月21日(日)には令和9年度入学予定の生徒に向けて実施した。

2-3. 東が丘看護学部入試説明会・相談会

本年度の入試説明会は、総合型選抜・学校推薦型選抜受験者を主たる対象として、9月15日(月祝)実施53名来校、相談会は一般選抜受験者向けに12月17日(水)実施、11名が来校した。

2-4. 個別見学会・個別相談会

学部個別見学会を11月と12月にそれぞれ1回ずつ実施した。

また、大学院の個別相談会を7月5日(土)、10月25日(土)に実施した。

2-5. FD講座等の開催(公開講座を含む)

① 7.14. (月) 第1回

テーマ:「看護教育モデル・コア・カリキュラム令和6年度改訂版セミナー」

講師: 一般社団法人日本看護系大学協議会主催

② 9.18. (木) 第2回

テーマ:「国際看護師協会 新たな看護・看護師の定義」

講師: 手島 恵 教授 (副学長、看護学研究科長)

③ 12.6. (土) 目黒区連携公開講座

テーマ:「お酒・飲酒について正しく理解しよう」

講師: 田中 留伊 教授

④ 2.12. (木) 第3回

テーマ:「研究倫理:ヘルシンキ宣言の改訂」

講師: 手島 恵 教授 (副学長、看護学研究科長、研究倫理小委員会委員長)

⑤ 3.4. (水) 第4回

テーマ:「生成 AI の利活用とそのピットフォール」

講師: 山本 純一 教授、深沢 弘美 教授 (医療保健学部 情報学科)

⑥ 3.19 (木) 第5回

テーマ:「孤立・孤独 ～その背景と健康や生活に与える影響～」

講師: 岸 恵美子 教授

2-6. 学友会活動

1) スポーツ大会

学友会の全学行事である、スポーツ大会が6月25日(水)に、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で終日開催された。東が丘 22 名を含む、五反田、世田谷、立川、千葉の各キャンパスからの学生 148 名が参加した。

2) 医愛祭(大学祭)

医愛祭を9月27日(土)、28日(日)、五反田キャンパスで開催した。今年「冒険」をテーマに、五反田キャンパス公開講座との共同開催、料理販売の復活等、より学生目線での催事として開催された。来場者は両日で昨年度比 1.56 倍の 1,149 名であった。

3. 入試状況

3-1. 令和8年度入学者選抜状況(選抜試験は令和7年度に実施)

概要

東が丘看護学部看護学科、大学院看護学研究科の入学者選抜の概略は以下のとおりである。

3-1-1. 東が丘看護学部看護学科

入試種別	志願者数	合格者数	入学者数	定員	定員充足率
総合型	57名(54名)	40名(28名)	40名(28名)	25名(20名)	160%(140%)
推薦	20名(26名)	19名(24名)	19名(24名)	28名(28名)	68%(86%)
一般	439名(438名)	276名(261名)	64名(63名)	47名(52名)	136%(121%)
計	516名(518名)	335名(313名)	123名(115名)	100名(100名)	123%(115%)

※カッコ内の数字は前年実績

○ 総合型選抜

(1) 対象

本学を第一志望(専願)とし、下記の入学資格に該当する者

1. 令和7年3月に高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。)を卒業見込みで、3年次1学期または3年次前期までの調査書を提出できる者

(2) 選抜方法

自己推薦書・調査書・面接を総合的に評価し選抜

○ 学校推薦型選抜(指定校・公募制)

(1) 対象

本学を第一志望(専願)とし、下記の入学資格に該当する者

1. 令和7年3月に高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。)を卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者
2. 高等学校における全体の評定平均値が3.5以上の者

(2) 選抜方法

小論文・調査書・面接を総合的に評価し選抜

○ 一般入試

1) 一般選抜入学試験 A・B・C・特別日程

(1) 試験科目

A日程 必須科目 英語(100点) 選択科目 数学I・数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から1科目選択(各100点)

B日程 必須科目 英語(100点) 選択科目 国語(近現代文のみ)、数学I・数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から1科目選択(各100点)

C日程 必須科目 英語(100点) 選択科目 国語(近現代文のみ)、数学I・数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から2科目選択(各100点)

特別日程 英語(100点)、国語(100点)、面接(50点)、調査書(15点)

2) 大学入学共通テスト利用入学試験

(1) 試験科目

必須科目 英語【リスニングを含む】(200点)

選択科目 国語【近代以降の文章】、数学I・数学A、生物、化学、生物基礎・化学基礎から2科目利用(3科目以上受験している場合は高得点の2科目を採用(各100点))

ただし、理科を2科目以上選択している場合は、「生物」「化学」の組合せのみ採用となります。

3-1-2. 大学院看護学研究科

・前期9月6日(土)及び後期12月13日(土)に実施しました看護学研究科の入学試験結果は、次のとおりです。

	定員	出願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
修士課程	40名	83名	34名	27名	68%
博士課程	2名	0名	—名	—名	—
看護学研究科 合計	42名	83名	34名	27名	64%

※いずれの値も前期及び後期の合算値。

○ 選抜方法

[修士課程]

筆記試験、面接及び出願書類を総合して行います。

[高度実践看護コース]

(1)筆記試験

看護学に関する総合的な基礎知識を問います。(120分)

必修問題3問

(2)面接試験1人15分程度

[高度実践助産コース]

①助産師免許取得コース

(1)筆記試験

看護学の基礎知識と母性看護学の知識を問います。(120分)

必修問題3問

(2)面接試験1人15分程度

②助産師プログラムコース

(1)筆記試験

助産学に関する知識と論理的思考力(小論文)を問います。(120分)

必修問題3問(うち1問は小論文)

(2)面接試験1人15分程度

[高度実践公衆衛生看護コース]

(1)筆記試験

看護学に関する総合的な基礎知識を問います。(120分)

必修問題3問(うち1問は小論文)

(2)面接試験1人15分程度

[看護科学コース]

①看護教育・研究者プログラム

(1)筆記試験

保健・医療分野に関する知識と論理的思考力を問います。

また、一部の問題は、英語の能力を問います。(120分)

[辞書(電子辞書は除く)1冊を持ち込むことができます。]

(2)面接試験1人15分程度

②看護管理者プログラム

(1) 事前面談

指導を希望する研究分野の教員と事前面談のうえ入学後の研究・教育につき了解を得る。

(2)面接試験 1 人 15 分程度

【博士課程】

(1)筆記試験

保健・医療分野に関する知識と英語の能力を問います。(60分)

〔辞書（電子辞書は除く） 1冊を持ち込むことができます。〕

(2)面接試験 1 人 15 分程度

4. 教職員名簿（令和 7.4.1 現在）

専任教員	担当領域	氏名	職名	採用等年次 (和歴)
	大学院看護学研究科長	手島 恵	副学長/教授	6.4.1 採用
	東が丘看護学部長	山西 文子	副学長/教授	25.4.1 採用
	看護基盤学	明石 眞言	教授	2.8.1 採用
		小宇田 智子	准教授	22.4.1 採用
		岸 達也	助教	4.4.1 採用
	総合看護学	山西 文子	教授	25.4.1 採用
		浦中 桂一	准教授	29.4.1 採用
		忠 雅之	講師	3.4.1 採用
	基礎看護学	上國料 美香	教授	6.4.1 採用
		高橋 智子	准教授	25.4.1 採用
		吉良 理絵	講師	5.4.1 採用
		吉末 雅哉	助教	6.1.1 採用
		吉田 貴恵子	助教	6.4.1 採用
	成人・老年看護学	竹内 朋子	教授	25.4.1 採用
		松本 和史	准教授	27.4.1 採用
		新山 真奈美	准教授	4.4.1 採用
		原口 昌宏	講師	29.4.1 採用
		佐藤 琴美	助教	2.9.1 採用
	小児看護学	中島 美津子	教授	28.4.1 採用
		玄 順烈	准教授	26.4.1 採用
		永井 史織	助教	4.10.1 採用
	母性看護学・助産学	渡邊 香	教授	6.4.1 採用
		朝澤 恭子	准教授	26.4.1 採用
		佐藤 いずみ	准教授	5.4.1 採用
		小嶋 奈都子	講師	22.4.1 採用
		戸津 有美子	講師	6.4.1 採用
		鬼澤 宏美	助教	2.4.1 採用
		浅井 百合絵	助教	4.4.1 採用
		勝山 なおみ	助教	5.4.1 採用
	精神看護学	田中 留伊	教授	22.4.1 採用
		中村 裕美	講師	22.4.1 採用
		菅原 裕美	助教	31.4.1 採用
	地域看護学	岸 恵美子	教授	7.4.1 採用
		駒田 真由子	講師	29.4.1 採用
		森山 潤	助教	5.4.1 採用

事務職員	役職	氏名
	部長	眞弓 彰久
	主任	齋藤 容子
	主任(大学院担当)	鎌田 りみ
	職員	岡田 友理
	職員	小宮 咲紀
	職員	大久保 司

職員
職員
図書館司書
図書館司書
図書館司書
図書館司書
図書館司書
保健室

津野 朋子
佐藤 光伸
加藤 亜樹
遠藤 一恵
長岡 亮子
大塚 久美子
澤 都

5. 委員会活動

自己点検・評価委員会

構成員

朝澤恭子（委員長）、中島美津子（副委員長）、新山真奈美、吉良理恵、岸達也、森山潤、眞弓彰久（事務部）

活動内容

令和7年度自己点検・評価報告書の作成を行った。また、令和6年度の年報として東が丘看護学部における委員会活動、教育活動に関して取りまとめ、本学ウェブサイトにアップロードを行った。

FD委員会

構成員

新山真奈美（FD委員長）、中島美津子（副委員長）、朝澤恭子、吉良理恵、岸達也、森山潤、眞弓彰久（事務部）

活動内容

2025年度は学部内教員によるFD研修会を2回、情報学科教員による研修を1回、臨時FD研修会を2回、合計5回/年を企画・運営した。また、全学や各委員会で企画された研修について、FD委員会からも参加推進およびFDマップ利活用の案内を行った。年度末のFDマップ利活用率アンケート調査結果においては、教育69.8%、研究61.2%、社会貢献55%と、学内FD委員会企画以外の研修も推進し、FDマップを活用することで、研修の充実性が高めることにつながった。今後もFDマップを活用しながら、教育の質を高めるために研修の企画・運営を行っていく。

東が丘看護学部カリキュラム検討委員会

構成員

竹内朋子(委員長)、岸恵美子(副委員長)、山西文子(学部長)、明石眞言、高橋智子、田中留伊、中島美津子、渡邊香、眞弓彰久(事務部長)、齋藤容子(事務部)

活動内容

新カリキュラムの完成年次を迎え、新カリキュラムでの最初の修了生となる4年次生および全科目責任者による多角的なカリキュラム評価を実施した。分析結果にもとづいて、カリキュラム改訂の必要性や方向性について検討していく予定である。また、全学の授業運営指針に沿った学修者本位の授業運営および成績評価により、前年度よりも進級率がさらに上昇した。次年度も、学部の教育体制のさらなる充実を目指して活動する予定である。

実習検討委員会

構成員

浦中 桂一(委員長)、佐藤 いずみ(副委員長；2025年9月まで)、玄 順烈 (副委員長；2025年10月から)、新山 真奈美、吉良 理絵、駒田 真由子、中村 裕美、戸津 有美子、岸 達也、吉末 雅哉、岡田 友理 (事務部)

活動内容

本委員会は、東が丘看護学部の看護学実習教育の質向上と円滑な運営を目指し活動している。本年度は、看護学実習年間計画の立案、臨地実習要項の作成、各学年への実習ガイダンス、看護技術経験表の活用方法の周知、インシデント報告の集計と分析、実習施設対象の看護学実習説明会の開催、独立行政法人国立病院機構 東京医療センター看護部との看護学実習連携会議の共催等を実施した。

学生生活支援委員会

構成員

田中留伊(委員長)、玄順烈(副委員長)、小宇田智子、高橋智子、小嶋奈都子、駒田真由子、忠雅之、原口昌宏、鬼澤宏美、永井詩織、吉末雅哉、澤都、眞弓彰久、岡田友里

活動内容

学生の相談(学習や進路に関すること等)や学業継続(休学・退学等)・健康状態の把握に関する事項について対応した。主な活動として、1年次生の合同研修は4月に国立オリンピック記念青少年総合センターで実施された。コンタクトグループミーティングは前期・後期ともに対面で開催した。スポーツ大会は6月に駒沢公園屋内競技場にて実施された。大学祭(医愛祭)は9月に五反田キャンパスにて実施された。定例となっている東京医療センターと協同イベントは七夕飾りつけのみ実施された。ボランティア活動の一環として、10月に開催された「第49回目黒区民まつり」に学生ボランティアを20名および教員1名を派遣した。

キャリア支援委員会

構成員

松本和史(委員長)、上國料美香(副委員長)、玄順烈、小宇田智子、吉良理絵、小嶋奈都子、忠雅之、中村裕美、佐藤琴美、永井史織、森山潤、眞弓彰久、齋藤容子

活動内容

国家試験対策として、全学年に国試ガイダンス、業者模擬試験(4年生7回、1-3年生1-2回)を実施した。4年生に対し、後期に教員による講習(13回)と業者による講習を開催した他、ゼミ単位で個別の学生への支援を行った。就職支援活動として、就職ガイダンス、外部講師を招いた就職支援講座、卒業生との懇談会、東京医療センター就職説明会、ゼミでの個別支援を実施した。

図書委員会

構成員

高橋智子（委員長）、小宇田智子（副委員長）、駒田真由子、佐藤琴美、
勝山なおみ、岸達也、図書館 町田玲彦、加藤亜樹、事務局 眞弓彰久

活動内容

学内外で利用可能な国内外の電子ジャーナル・電子書籍等のサービスを検討し、厳選して整備した。書籍購入では定期リクエストを受け付け、学生の学修および教員の教育活動への活用を図った。目黒区との地域連携では、「認知症」をテーマに 17 冊を選書し、ブックリスト配布とコラボ展示を行い、学生の関心と連携を促進した。あわせて東が丘図書館の利用実績およびデータベースのアクセス状況を取りまとめた。

広報・情報ネットワーク委員会

構成員

中島美津子（委員長）、佐藤いずみ（副委員長 2025 年 9 月 30 日まで。10 月 1 日以降、副委員長不在）、浅井百合絵、吉良理絵、駒田真由子、中村裕美、吉田貴恵子、鎌田りみ(事務)、西村聡明（入試広報部）、荻原雄一（入試広報部）

活動内容

- 1) 大学学部案内 令和 8 年度の本学の首都圏版パンフレットの作成
- 2) 広報イベント
 - (1) オープンキャンパス 年 3 回（6 月 8 日,7 月 27 日, 2026 年 3 月 21 日）
 - (2) Web オープンキャンパス
 - (3) 入試説明会 年 2 回（9 月 15 日, 12 月 17 日）
 - (4) Web 入試説明会
 - (5) 高校教員対象大学説明会（来学開催）
 - (6) 一般選抜科目対策講座（Web 開催）
 - (7) 入試相談会（来学開催）
- 3) その他
 - (1) 学報「こころ」2 回発行し、教育活動や学生支援の PR 活動
 - (2) 本年度より東京医療センター看護部との協働で病院見学ツアーを実施。

ヒトに関する研究倫理委員会東が丘・立川小委員会

構成員

手島 恵（委員長）、小宇田智子（副委員長）、上國料美香、岸 恵美子、久保恭子、竹内朋子、西山健治郎（外部委員）、長谷川一恵（外部委員）

活動内容

東が丘と立川キャンパスにおける卒業研究、課題研究、特別研究、教員研究のうち、ヒトを対象とする研究課題につき、合計 65 件の審査を行った。また、研究計画の申請書類内容の検討を行い教授会、FD で周知した。

医療倫理特論 1 年次前期 (1) 担当教員 手島恵 (2) 教育内容 高度実践看護を提供する際に求められる倫理的実践の基盤として必要な知識を概説した。また、各コースに特徴的な事例を取り上げ、動画教材を視聴し検討・考察を行った。その上で、各自が実践で直面した倫理的課題を事例としてまとめ、コースごとの小グループで当事者や患者にとって最善の方策 について検討し発表・共有を行った。

入試委員会

構成員

非公開

活動内容

入学試験に係る事項について審議し、試験の円滑な実施を図った。学部入試では、総合型、学校推薦型、一般選抜 (A、B、C 及び新しい特別日程) さらに大学入学共通テスト利用入学試験に従事した。大学院看護学研究科の入試では、修士課程として高度実践看護、高度実践助産、高度実践公衆衛生、看護科学の一般入試が、前・後期に分けて行われた。また高度実践助産及び公衆衛生コースに関しては、東が丘看護学部特別選抜も行われた。博士課程に関しては、前期一般入試が行われた。

国際交流委員会

構成員

朝澤恭子 (委員長)、玄順烈 (副委員長)、原口昌宏、勝山なおみ、岸達也、菅原裕美、吉田貴恵子

活動内容

9 月にオーストラリア：グリフィス大学現地研修、3 月にハワイ：シャミナード大学オンライン研修が開催された。研修内容の検討、日程調整、参加 PR、申請手続き、事前研修支援、アンケート評価を実施した。国際講演会として、海外の医療・看護に関するオンライン講演会が 3 回開催され、企画・運営・アンケート評価を担当した。

看護学研究科カリキュラム委員会・学生支援委員会

構成員

手島恵、山西文子、明石眞言、上國料美香、竹内朋子、田中留伊、渡邊 香

活動内容 看護学研究科修士課程と博士課程に関する教育計画、実施、評価等に係る教育内容の質向上のための検討を行った。毎月、各コースのカリキュラムや教育・研究に関する取り組みとその評価、単位取得状況等を確認し、研究科教授会への報告及び学籍異動に係る審議等を行った。高度実践看護コース・高度実践助産コース・高度実践公衆衛生看護コース、看護科学コースでは各々 25 名、7 名、3 名、4 名の合計 39 名が修了認定された。

6. 教育活動報告

6-1.東が丘看護学部

【看護基盤学領域】

1. 教育方針

広い視野に立った物の見方を学ぶために人間の生命を自然科学的、倫理的、あるいは社会学的等、多面的な側面より論じることのできる能力を有する看護師の育成を目指す。

2. 科目名

1) 自然科学の基礎 1年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、小野孝二、岸達也

(2) 教育内容

専門基礎分野、専門分野における高度な看護の専門科目を履修するために必須である生物、化学、物理、数学等に関する基礎的な知識を学習することを目的とした。学生によって各内容の理解度に差があるため、基礎的な内容について、理解しやすいようにイラストや身近な話題を取り入れる等、工夫した。学生の個別の質問にはメールで応じて、全学生が最低限の必要知識を得られるように対応した。次年度も学生間で知識の差があると予想される。そのため、学生には予習および復習を促し、授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し、高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指す。

2) 解剖生理学Ⅰ 一年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、非常勤講師

(2) 教育内容

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を見て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力も求められる。その際、身体の異常に気がつく力、異常を知る力が必要になる。正常な身体の仕組みと働きが損なわれると異常となることから、身体の異常とは何かを知り、異常に気がつくには正常な身体の仕組みと働きを知っている必要がある。本科目では、人体や人体を構成する細胞・組織・器官・臓器について、正常な構造と働きに関する基本的な事項について、資料を用いて視覚的に示すことでイメージしやすいように工夫し、わかりやすく概説した。次年度も、学生には予習および復習を促し、授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し、高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指す。

3) 解剖生理学Ⅱ 1年次前期

(1) 小野孝二、忠雅之、非常勤講師

(2) 教育内容

人体の構造とその機能を学科目であり、医療職として最も基礎となる科目であり細胞レベルからの成り立ちと基本構造、様々な機構や形態の理解を通じて健康科学を学ぶ上で必要となる基礎知識を習得する。解剖生理学Ⅱでは、消化器、循環器、呼吸器、血液、腎臓（泌尿器）、内分泌、免疫の7領域の緒機能を理解することを目的とした。次年度は、解剖生理学は臨床においてとても重要であることを認識させ学習する工夫をする。

4) 臨床検査学演習 2年次前期

(1) 担当教員 小野孝二、小宇田智子、岸達也

(2) 教育内容

診断・治療の基礎として活用されている臨床検査の原理を理解し、その意義を学ぶことを目的として演習を実施した。組織学検査、心電図検査、血液検査、尿検査、染色体検査、放射線検査の各項目につき、試料の観察や測定等を通して、その基本原理、解剖生理と病態に関する理解を深めた。次年度も引き続き、各臨床検査演習を通じて臨床に近い形での教育を目指す。

5) 公衆衛生学 2年次後期

(1) 担当教員 小宇田智子

(2) 教育内容

公衆衛生学は集団の健康を対象とするものであり、歴史を振り返れば、感染症との戦いが現代公衆衛生学の基礎を築いたといっても過言ではなく、公衆衛生学の必要性は明らかである。本科目では、広い視野を持ち、社会の動きのなかに、公衆衛生学の要素を見出すことができるよう、可能な限り社会の動きと結びつけた講義を行った。次年度は、学生が現実の社会で起きていることを、公衆衛生学の視点で見ることができるような講義を目指す。

6) 看護研究の基礎 3年次前期

(1) 担当教員 小野孝二、竹内朋子、上國料美香、小宇田智子

(2) 教育内容

エビデンスに基づく看護に資する看護研究を実施する素地を形成することを目的とした。看護学における研究の意義、研究を開始するための基礎となる情報の集め方から始め、研究手法の分類と進め方、倫理的配慮、研究のまとめ方の一連のプロセスについて講義した。次年度も、より先駆的な看護研究を題材として取り上げ、研究を実施する素地を形成することを目指す。

7) 英語論文のクリティーク 3年次後期

(1) 担当教員 明石眞言 各領域担当教員

(2) 教育内容

英語原著論文の検索法を示し、各領域に関連し、学生が興味のある英語原著論文をした。

論文の内容は、各領域における卒業研究に関連のあるものとした。指定された英語論文を精読し、卒業研究グループの中で発表と討論を行った。次年度は、AIによる自動翻訳機ではなく、辞書を引きながら論文を読む習慣が求められる各自の研究内容と関わりを明確化し、論文から得られた内容を研究に結び付ける工夫をしたい。

【総合看護学領域】

1. 教育方針

アクティブラーニングの導入科目を積極的に増やし、大学評価の受審時まで目標 100%達成に尽力した。学生には自ら考える、考えさせる対応を工夫し、時々共有する。また、出来るだけ現実に近い形で知識の統合、判断の根拠、思考のプロセスを繰り返し、技術の実施、評価というPDCAサイクルを廻すように教職員の支援を支えてきた。また、チームの一員としてのセルフマネジメントの重要性も再確認する機会であり、臨地実習最後の纏めである。臨床への第一歩がスムーズに踏み出せるように4年間の纏めでもあり、社会への橋渡しの位置づけである。学生には、実習病院の一つの病棟の全ての媒体を用い、必要な情報を主体的に収集し、計画し、実践し、評価していくプロセスを体験し、その重要性・大切さを認識させたい。

2. 科目名

1) 看護政策論（選択科目）4年次前期

(1) 担当教員 山西文子

(2) 教育内容

今年度は看護行政等に関心の高い学生が選択し約 87 名であり積極的であった。職能団体の副会長からの具体的看護政策企画立案、提言、予算化実施、評価。次に一人の国会議員による基礎的な知識と実際の政策決定過程に携わった実践、議員立法のプロセスに係る講義を拝聴した。更に後半は現在の社会問題となっている看護問題についてデベート形式で意見を出し合い積極的な参加であった。最後には筆者が看護行政を実践した経験の「臨床看護研究費の予算要求」「看護師の二交代制勤務の実現」等の例を出しながらどのように動かしたかの実例を講義した。リアルなので4年次学生の反応は良かった。

2) 看護情報学・統計学演習 2年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、岸達也

(2) 教育内容

統計学の基本的な概念や考え方を理解し、データ分析の統計手法について実践を通して学ぶことを主な目標とした。質的データや量的データをどのように取り扱うのか、科目開始時に履修生対象のアンケートを行い、オリジナルの演習データを作成した。アクティブラーニング手法を用いて統計ソフトや表計算ソフトを用いた実践演習を行った。今後は統計ソフトの事前準

備を促し、事後学修の徹底を図っていく必要がある。

3) フィジカルアセスメント 2年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、忠雅之、岸達也

(2) 教育内容

器官系統別に解剖生理およびフィジカルイグザミネーション技術について講義したのち、身体的な機能評価のためフィジカルイグザミネーションについて、学生同士でグループ学習する展開とした。アクティブラーニングを対面授業にて展開したが、実習で遭遇しそうな症例を用いてアセスメントや臨床推論の要素をより多く取り入れて症状マネジメントを思考する機会や時間を授業内で設ける必要がある。

4) 災害看護学 2年次前期

(1) 担当教員 忠雅之、非常勤講師(太田医師)

(2) 教育内容

災害時の医療・看護活動の基盤となる法的根拠や災害対策及び災害各期の救護活動や看護ケアについて説明し、災害のイメージを得るため、DVD 等も活用した。また、世界情勢から自然災害だけでなく、CBRN 災害を想定した除染、避難についても説明を加えた。本年度も東京医療センターの災害訓練に参画し、トリアージや傷病者やその家族の思いを疑似体験するアクティブラーニングを実施した。次年度も継続的に実施していく。

5) 政策医療論 2年次後期

(1) 担当教員 山西文子、非常勤講師 3人

(2) 教育内容

我が国の医療政策並びに国立病院機構が行う政策医療と今後の医療提供体制、地域包括ケアシステムについて解説した。また、看護の専門職化の歴史、看護の質の向上に向けた取り組みについて説明するとともに、医療従事者法としての保健師助産師看護師法の課題や関連団体の政策・事業についても説明した。本年度は、政策について関心を高めることをねらいとして看護政策の提案提言を実施した。次年度も能動的学習を促進する。

6) 看護職とキャリア形成 4年次後期

(1) 担当教員 中島美津子

(2) 教育内容

看護専門職として成長するプロセスとキャリア形成に関する知識を深めることを目的としている。重要なキーワードとして、生涯発達、キャリア発達、リフレクション、プロフェッショナルリズム等を取りあげ、概念的理解を深められるよう事例等を紹介しながら説明した。本年度は、「私のキャリア・プラン」というテーマでグループ討議及び発表会を実施した。次年度も

講義内容と教材を精選し、アクティブラーニングの実施に取り組む。

7) 看護管理学 3年次前期

(1)担当教員 松本和史、竹内朋子

(2)教育内容

対象者により良い看護実践を行うために必要な看護マネジメントの基礎知識・技術・態度を学ぶことを目的にした。実際の医療現場での看護マネジメントがイメージしやすいように、講義だけでなく、事例演習やディスカッションを取り入れ、組織のマネジメントや卒業後のキャリア形成を考えるような機会を設けた。次年度も、グループワーク等のアクティブラーニングを取り入れた授業設計を行う。

8) 医療安全学 3年次前期

(1)担当教員 忠雅之、森山潤

(2)教育内容

医療安全の基本的な考え方や安全性の確保に向けた看護職の役割を理解し、実際に起きた事象を多角的な視点で考察し、安全を阻害する要因やその対処・予防方法の理解を深め基本的な対応方法を学習することを目標とした。実際の医療事故事例をもとに、様々な立場から考えるグループワークを行い、自分事として考える機会を設けた。学生たちも実際の医療現場の安全について具体的にイメージすることができていた。

9) NP 論 (選択科目) 4年次後期

(1)担当教員 浦中桂一、山西文子

(2)教育内容

4年次生が選択し、授業にも積極的に参加した。前半はわが国におけるNP教育の実態及び世界各国におけるNP教育・役割・活動の実際についての概要を講義し、その後は我が国において大学院NPコースを修了し現場で活躍しているNP、海外のNPの講師に活動の実際を講義頂き、質疑応答アプリにて質問の時間を設けた。マスコミの観点から見たNPについても講義してもらった。今後は講師を変えてプライマリ領域も含め多種多様なNP活動の実際についてより多く講義してもらい、学生のキャリア開発に対する動機づけの可能性を拡げる必要がある。

10) 看護学統合実習 4年次前期

(1)担当教員 山西文子、浦中桂一、忠雅之

(2)教育内容

本実習は、4年次までの全ての看護学実習の内容や看護マネジメントの学習を統合した実習として位置付けている。実習は学内実習と臨地実習からなり、学内実習では4月～7月に

レポート作成・プレゼンテーション、看護技術演習を計画実施し、臨地実習は6施設で7月～8月に実施した。来年度は9日間の臨地実習期間となる。実習施設が1施設増えるため、学生の実習目標達成に向け、実習前の学生の準備状況(知識面、技術面、態度面)及び臨床側との十分な教員側、受け入れ病棟等の調整が重要である。

11) 卒業研究 4年次通年

(1) 担当教員 山西文子、浦中桂一、忠雅之

(2) 教育内容

10名程度のグループごとに、研究テーマを設定し、研究計画の立案から成果発表までの一連のプロセスを学修する。2024年11月に体育館において「卒業研究発表会」を開催し、3年生も含め全教員参加の下、学会形式で発表が行われた。学生同士の質疑応答も活発に行われていた。発表内容を一部サテライトで中継したが回線の不具合で共有できなかった。今後はPC環境を改善して円滑な会の運営を行う。各グループのテーマと構成メンバーは以下の通り。

看護基盤学領域

小児がんサバイバーにおける放射線治療による二次がん発生リスク：文献レビュー

佐藤 凜生、青山 琴音、新谷 こころ、井出 知里、関崎 愛里、

高木 里緒、中村 悠翔、野口 未来、森谷 結衣、安田 歩生

総合看護学領域

生活援助技術としての髪乾燥支援方法との比較検討-手ぐし・タオル・手袋型タオルを用いて-

土本 実思亜、一瀬 晃之介、小畑 那実、鈴木 結衣、須藤 清香、

高橋 笑子、高橋 晏、長友 愛理、松村 美風、渡辺 愛菜

基礎看護学領域

泡洗浄と熱布貼用を併用した足部清潔ケアが洗浄度・生理的側面・主観的評価に及ぼす影響-ベースンを用いた足浴法との比較-

津田 深愛、大坂 わかな、江夏 美穂、小須田 越、佐藤 朱莉、

高間 らら、立花 美波、菱沼 幸歩、谷中 嗟和、吉本 直也

成人・老年看護学領域

一次トリアージにおける看護学生を対象としたタイムアタック式学習法の有効性

大村 乃愛、大澤 翔、大竹 花奈、大谷 萌、関根 由華、藤川 未依、皆川 美優、

箕浦 桜、横山 契太、吉元 彩弥

臨地実習において看護学生が抱くコミュニケーション困難感の要因と対処法

萩原 胡桃、秋村 汐音、虻川 菜々花、加藤 悠、北島 伶音、齋藤 那奈、

塩田 那桜、生井 瑠菜、西別当 麻央、古見 茉莉子

小児看護学領域

看護系大学に通う学生の手洗いの客観的・主観的評価

榎本 花来、大竹 風沙、田部 亮、土田 望鈴、戸塚 愛水、

内藤 ありさ、畠山 優菜、松葉 伶奈、渡部 春佳

母性看護学領域

キャッチアップ世代の女性における HPV ワクチン接種の関連因子に関する文献レビュー

小野 衣織、稲垣 琴海、大金 茉奈、佐川 日柔、佐藤 若葉、中島 綾音、

中村 里彩、林 悠乃、深田 舞花、本田 紗羅

看護学生の学生生活と月経に関連した不快症状についての文献レビュー

橋本 奈々、岩元 りん、小松 美峰、佐藤 杏珠、進藤 彩歌、中野 ほのか、

野口 まりあ、東野 杏紗、福岡 璃子、袈川 汐音

精神看護学領域

看護系大学生における推し活と主観的幸福感およびストレスコーピングとの関連

藤田 涼雅、遠藤 梨子、小林 春菜、三部 空、仙石 風渚、

信田 陽莉、橋本 紗耶佳、左 聖奈、福島 樹里、松田 和華

地域看護学領域

看護学生のカフェイン摂取と健康状態（睡眠状況、ストレス）との関連

小野 亜弥、神谷 優奈、伊東 萌音、今村 陽菜、近都 真凜、後藤 千雅、鈴木 葵

子、関根 桜、園田 紗彩、穂坂 実祐、横尾 真子

看護学生の月経管理アプリの利用とセルフケア意識との関連

石川 彩、岩崎 悠菜、重山 舞、鈴木 美羽、高橋 愛衣、照屋 桃羽、留木 萌花、

町田 鈴音、三森 風花、山本 光那

12) 国際看護学Ⅰ 2年次後期

(1) 担当教員 山西文子、森山潤

(2) 教育内容

人々の健康を取り巻く世界の保健医療の動向や健康問題に触れ、グローバルに看護を考える視点を養うことを目的に、授業及びグループワークを実施した。国際看護活動の支援では、主に低中所得国に対する国際医療協力の事例を取り上げ、国際的な視野のもとで看護がどのように地域社会・国際社会に貢献できるかについて議論した。課題レポートでは、国際看護に対する自らの考えを課題として評価した。

13) 国際看護学Ⅱ 3年次前期

(1) 担当教員 山西文子、森山潤

(2) 教育内容

3年次生が選択し、自考自調の精神のもと、2~4人を1グループとした探求学修を実施した。各グループがグローバルな観点から人々の健康課題と向き合い、厚生労働省をはじめとする様々な機関や病院およびNGOとの調整を図り、施設訪問や街頭での外国人インタビュー等を実施した。最終発表会では全グループの活動が共有された。個人の思考過程や資料等をまとめた探求ノートを作成し、探求のプロセスも評価の対象とした。

【基礎看護学領域】

1. 教育方針

看護の学習の基礎として「なぜそうするのか」「何が最善か」を問い続ける力と対象者に関心を向ける力を育てる。看護の奥深さや楽しさに触れられる授業を通し、専門的学習への動機づけとなる教育をめざす。

2. 科目名

1) 看護学概論 1年次前期

(1)担当教員 松山友子、大野悠子

(2)教育内容

看護および看護に含まれる基本概念（人間・環境・健康）について理解するとともに、今後の看護学の学習に向けた自己の課題を明確にすることを目的に授業を展開した。毎回、基本概念をテーマとした事前課題を発表する場を設けた他、看護の記録映像を題材に、看護の活動や役割をグループで検討し発表した。次年度も意見交換からの学びを促すと共に、看護学や看護実践に必要な基本的な知識の理解や定着を図ることを課題としたい。

2) 看護実践技術論Ⅰ（日常生活における援助技術と判断） 1年次前期

(1)担当教員 高橋智子、上國料美香、吉良理絵、吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2)教育内容

看護技術の成り立ちと人間の生活の特徴への理解を基盤として、「なぜ行うのか」「何が最善か」を自ら問いながら考える力の育成を目指し、体験学習を取り入れた講義、グループワーク、演習を実施した。今年度は科目構成および各単元の演習内容を精選し、学習効果の向上を図った。次年度はLMS等のICT教材をより効果的に活用し、学生が主体的に学び、看護の奥深さを実感できる授業づくりをさらに探求したい。

3) 看護実践技術論Ⅱ（治療、処置における援助技術と判断） 1年次後期

(1)担当教員 吉良理絵、上國料美香、高橋智子、吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2)教育内容

診療の援助技術である注射、採血などの侵襲を伴う看護技術について、専門職として必要な知識・技術・態度を修得するよう、講義（グループワークでは生成 AI を活用し事例の検討）や演習を行った。演習では、看護師や患者の体験を通じて、安全に看護技術を実施するための解剖学的な根拠や、看護師の倫理性・安全性について、学生が自ら気づけるよう工夫して指導した。次年度は生成 AI を活用した活発なグループワークを工夫したい。

4) 看護実践技術論Ⅲ（看護技術の統合） 1年次後期

(1)担当教員 高橋智子、上國料美香、吉良理絵、吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2)教育内容

足浴や清拭など清潔の援助技術を題材に、教育用電子カルテを活用してグループ・個人で対象の個別性に応じた援助計画の立案・実施・評価を行った。実施・評価にはグループ討議や LMS を用いたルーブリック評価を取り入れ、学生が主体的に学習できるよう工夫した。次年度は事例を見直しつつ、教育用電子カルテや LMS 等の ICT 教材を効果的に活用し、対象の個別性に即した援助をより適切に検討・実施できるよう支援したい。

5) ヘルスアセスメント 1年次前期

(1)担当教員 吉良理絵、上國料美香、高橋智子、吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2)教育内容

対象者を包括的に理解するための基本的技術について、講義で知識を学び演習で実践した。授業ではデモンストレーションをとりいれ学生が具体的なイメージを持てるよう工夫し、小グループでディスカッションを行った。血圧測定 of 技術試験を実施し技術の確認をした。対象者を系統的に理解するために、理論に基づくアセスメントガイドを作成し意見交換を行った。次年度は、得られた情報をアセスメントする能力の強化に取り組みたい。

6) 看護過程と看護方法論 1年次後期

(1)担当教員 松山友子、上國料美香、高橋智子、吉良理絵、吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2)教育内容

看護過程の 5 段階をさらに 11 のステップに分け、ステップごとに反転授業を取り入れ、事前課題（ワークシート・事例検討）→授業（グループでの意見交換・事例の参考例の提示と疑問点への解説）→事後課題（事例検討の修正）という流れで授業を展開した。今年度は、導入から教育用電子カルテを活用し、事例検討では習熟度別のグループ編成を継続した。いずれも学生には好評であり、効果的な学習方法として継続したい。

7) 看護理論 2年次後期

(1)担当教員 上國料美香、吉良理絵、大野悠子

(2)教育内容

看護学の基盤となる代表的な看護理論家について、理論成立の背景や理論の概要、特徴を理解することを目的に授業を行った。グループ毎での協同学習と学習成果の発表、クラス全体での討議を実施し、教員から補足講義を加えた。また、看護学実習中の実践に看護理論を活用し、意義や課題について自らの考えをまとめるレポート課題を設けた。来年度も討議の進め方や発表方法を工夫し、看護理論の理解をより深める授業展開を旨ざしたい。

8) 看護教育学 4年次後期

(1)担当教員 上國料美香、吉末雅哉

(2)教育内容

看護学教育に関わる制度やカリキュラムについて理解を深めることを目的に、講義とグループ討議を組み合わせて授業を展開した。本学のカリキュラムおよび授業設計を確認するとともに、「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」を参考に、自らの4年間の学びを振り返り自己評価する演習を取り入れた。次年度は、学生の多様な学習活動を組み込み、主体的な理解と学びの深化につながる授業展開を旨ざしたい。

9) 看護学体験実習 1年次前期

(1)担当教員 高橋智子、上國料美香、吉良理絵、駒田真由子、菅原裕美、森山潤、吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2)教育内容

訪問看護ステーションを含む3施設の協力のもと、医療施設の環境や看護活動の実際について見学や指導者からの説明を受け、体験的に学習できるよう講義を構成した。成果発表会では、学生が看護・人間・健康・環境についての学びを具体化し、看護師の役割への理解を深めていた。次年度は、外来や地域など実習の場をさらに広げ、健康問題を抱えながら生活する人々への看護に目を向けられる実習展開をめざす。

10) 日常生活援助展開実習 1年次後期

(1)担当教員 高橋智子、上國料美香、吉良理絵、浅井百合絵、鬼澤宏美、勝山なおみ、岸達也、佐藤琴美、菅原裕美、永井史織、森山潤、吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2)教育内容

2施設の協力を得て、学生は患者1名を受け持ち、個別性に応じた援助の実践を目指して、バイタルサイン観察、療養環境の整備、清潔ケアなどの援助計画を立案・実施・評価した。学生は患者に向き合う経験を通して、学内での学びを具体化し、個別性に応じた援助の重要性への理解を深めていた。次年度は記録媒体の見直しを進め、学生が個別性に沿った援助をより確実に実践できるよう指導体制を強化したい。

11) 看護過程展開実習 2年次前期

(1)担当教員 高橋智子、吉良理絵、鬼澤宏美、勝山なおみ、岸達也、佐藤琴美、菅原裕美、

永井史織、吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2)教育内容

患者1名の看護過程の展開を通して学生は個別性に応じた看護を実践する方法への理解を深めた。受け持ち患者の情報をアセスメントし、既習内容で対応可能な看護上の問題に取り組み、看護計画の立案・実施・評価を行った。日々の教員の指導により、思考を整理・深化させる姿がみられた。次年度は記録媒体の見直しや実習施設との連携を強化し、指導内容と方法の充実を図りたい。

12) キャリア開発実習（認知症患者へのケア） 4年次前期

(1)担当教員 上國料美香、吉良理絵、高橋智子、吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2)教育内容

本科目の目的達成に向け、複数施設において、認知症看護のスペシャリストによる看護実践の見学、組織横断的活動への同行、インタビュー、ならびにジェネラリストへのインタビューなど、多様な学習活動を含む授業を構成した。学生は、スペシャリストとジェネラリストそれぞれのキャリアの意義を理解するとともに、自己のキャリアプラン実現に向けた強みと課題を明確化できた。次年度は、学習活動のさらなる充実と拡大を図りたい。

【成人・老年看護学領域】

1. 教育方針

成人期と老年期を一連のライフサイクルとして捉え、幅広いライフステージの人々を対象とした看護実践能力の養成を目指している。DX、アクティブラーニングを重視し、“tomorrow’s Nurse”の資質の錬成につながる講義・演習・実習を展開していきたい。

2. 科目名

1) 成人看護学概論 1年次後期

(1) 担当教員 竹内朋子

(2) 教育内容

成人期にある人々の身体・心理・社会的特徴と、成人看護学の基礎を理解することを目標とした。成人期の健康に関する疫学データ、生活習慣と健康問題の関連、成人看護に関する主要な諸理論、成人期の経過別看護の特徴について講義し、自己と他者の経験や意見を学習資源にできるよう、事前課題やグループディスカッションを活用した。成人看護学の導入となる科目であるため、次年度も成人看護の基礎を修得できる講義を目指したい。

2) 老年看護学概論 1年次後期

(1) 担当教員 新山真奈美

(2) 教育内容

老年期にある人々の発達課題および身体・精神・社会的特徴等、高齢者を多角的に理解することを目標に進めた。高齢社会が直面する保健医療福祉の課題や老年看護の役割を理解できるように、事前学習として小テストや課題（高齢者の特徴・制度・倫理的課題）の提示、授業においてはディスカッションや課題の発表、高齢者疑似体験の演習も取り入れた。次年度も学生が高齢者に関心を持ち、超超高齢社会にも目を向け、老年看護学を学ぶことの動機付けとなるよう期待する。

3) 慢性期看護論 2年次前期

(1) 担当教員 松本和史、原口昌宏、佐藤琴美

(2) 教育内容

慢性疾患をもつ対象者の受容過程をふまえ、セルフケア能力を高めるための援助について理解することを目標とした。器官系統別に代表的な慢性疾患とその看護について講義した。授業内容に関するテストを毎回実施し理解が深まるよう促した。視聴覚動画と教育用電子カルテを用いた看護過程演習や血糖測定等の看護技術演習も行い、実践的な理解を深めた。次年度も、看護過程や看護技術の演習を取り入れた授業を行う。

4) 老年看護実践論 2年次前期

(1) 担当教員 新山真奈美

(2) 教育内容

加齢現象やフレイルに加え、高齢者特有の疾患や主要な症状からくる健康問題や生活障害を持ちながら暮らす高齢者を理解し、対象に応じた健康支援や生活支援の習得を目標に進めた。事前学習として各回に小テストや課題を提示し、主体的に学修する意義を理解できるよう動機づけを図った。授業ではディスカッションや課題の発表等も取り入れ、技術演習では高齢者の生活機能や潜在能力（もてる力）を活用した技術（排泄、移乗・移動、食事、吸引等の看護技術）の提供を意識し教授した。次年度も、学生が主体的に学び、看護実践能力の基盤となる授業展開を行う。

5) 家族看護学 2年次後期

(1) 担当教員 松本和史

(2) 教育内容

病気や障害が家族に与える影響と家族が障害や患者に与える影響について理解し、家族を単位として展開する看護について学ぶことを目標とした。家族看護に関する講義やグループ

ワークを行い、 家族の複雑な問題を多角的に考える力を養った。 家族看護の実践者による講義も取り入れた。 各回の目標と自己評価に ICE モデルに基づくルーブリック評価を導入した。 次年度も、講義とグループ演習を取り入れた授業構成とする予定である。

6) 急性期看護論：3年次前期

(1) 担当教員 原口昌宏、竹内朋子、松本和史

(2) 教育内容

急性期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴と生命維持、術後合併症予防、残存機能を活かした看護について理解することを目標とした。

前半では、生体侵襲や全身麻酔による影響、生命維持機能についての講義を行い、その後周術期看護や救急看護・重症ケアの講義につなげることで、侵襲による身体的、心理的、社会的変化や好発する合併症の予防について理解できるようにした。

後半は、代表的な疾患の病態と手術を中心とした治療についての講義を行い、各手術療法に特有の合併症や看護についての理解を深めた。今年度は、授業前後に授業内容に関するテストを行い、復習ができるようにした。同時期に開講される成人看護実践論の内容・進度と連動させて、より実践的な学びが得られるよう工夫した。

次年度も、後期に開講する急性期看護学実習につながるよう、周術期看護および救急看護・重症ケアの知識を深める授業を行う予定である。

7) 終末期看護論 3年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子

(2) 教育内容

終末期にある対象の全人的苦痛を緩和するための看護、臨死期・死亡直前期・死後の看護、終末期患者家族へのグリーフケアについて理解することを目標とした。死すべき存在を対象とする医療職を目指す者として、自己と他者の経験や意見を学習資源にできるよう、事前課題やグループディスカッションを活用した。次年度も、終末期看護の実践能力向上につながる講義を目指す。

8) 成人看護実践論 3年次前期

(1) 担当教員 松本和史、原口昌宏、佐藤琴美

(2) 教育内容

成人看護に必要な看護技術を理解し、個別性のある看護過程を展開できることを目標にした。看護技術に関しては、一次救命処置、輸液ポンプの取り扱いなどの看護技術の演習を行った。さらに、シミュレーション演習を取り入れ、学生が臨床現場をイメージして主体的に学修できるよう工夫した。看護過程に関しては、教育用電子カルテでの看護事例を用いて、より実践的な理解を促した。

次年度も演習中心の内容として、実践力向上を図りたい。

9) 看護管理学 3年次前期

(1) 担当教員 松本和史

(2) 教育内容

対象者により良い看護実践を行うために必要な看護マネジメントの基礎知識・技術・態度を学ぶことを目的にした。実際の医療現場での看護マネジメントがイメージしやすいように、講義だけでなく、事例演習やディスカッションを取り入れ、組織のマネジメントや卒業後のキャリア形成を考えるような機会を設けた。

次年度も、グループワーク等のアクティブラーニングを取り入れた授業設計を行う。

10) 成人看護の探求 4年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子、新山真奈美、松本和史、原口昌宏、佐藤琴美

(2) 教育内容

成人看護にまつわる今日的課題について知り、看護師としての自己の見解を論述できることを目標とした。様々な課題についての最新の動向や研究知見にもとづいて講義し、自己と他者の経験や意見を学習資源にできるよう、グループディスカッションを活用した。次年度も、看護師として幅広い見識を持ち、論理的に他者と議論する力を養う講義を目指す。

11) 慢性期看護学実習：2年次後期

(1) 担当教員 松本和史、竹内朋子、新山真奈美、原口昌宏、佐藤琴美、岸達也、
吉末雅哉、吉田貴恵子、永井史織、浅井百合絵、鬼澤宏美、勝山なおみ、
菅原裕美、森山潤、

(2) 教育内容

患者の退院後の生活の再構築に向けた看護を学ぶことを目的に、高齢者施設と病院で行った。高齢者施設実習では、高齢者とのコミュニケーションや援助場面の見学を通して、高齢者の特徴や看護の役割を学習した。病院実習では慢性期の入院患者1名を受持ち、看護過程の展開を行った。また、外来看護実習等を取り入れ、多角的に看護師の役割を学べるよう工夫した。

次年度も、高齢者施設と病院で実施し、慢性期看護の実践的な学びが深まるようにする。

12) 急性期看護学実習 3年次後期

(1) 担当教員 原口昌宏、松本和史、新山真奈美

(2) 教育内容

外科系病棟での看護過程展開実習、手術室(1日)並びに救命救急センター(1日)での実習の計2週間で構成した。教員と実習指導者は、協働して患者の全体像をふまえた看護過程の展開ができるよう指導した。実習記録から術後合併症予防と早期離床ケアのほか、退院後の生活を

見据えた指導ケアの重要性、看護師の役割などが理解できた実習となっていた。次年度も前期の演習や講義、課題と統合して実習との連動性を高めた実習を目指す。

13) 終末期看護学実習 3年次後期

(1) 担当教員 竹内朋子、佐藤琴美

(2) 教育内容

各学生が入院中の終末期患者1名ずつ受け持ち、終末期の全人的苦痛を緩和するための看護、臨死期・死亡直前期・死後の看護、終末期患者家族へのグリーフケアを看護過程にそって実践した。次年度も、終末期にある患者と家族への緩和ケアを実践する能力を養成していきたい。

14) キャリア開発実習：クリティカルケア 4年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子、原口昌宏、新山真奈美、松本和史

(2) 教育内容

クリティカルケアに関する医療・看護の役割・機能、今日的課題について説明し、看護師としての自己のキャリアを考察することを目標とし、救命救急センター、救急外来、CCU、HCU、ICUで実習した。また、実習を通じた学習成果をグループとしてとりまとめてプレゼンテーションを実施した。次年度もクリティカルケアの専門性やキャリアについて効果的に学習できる実習を目指す。

15) キャリア開発実習：がん看護 4年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子、小野孝二、佐藤琴美、岸達也

(2) 教育内容

がん医療・看護の役割・機能、今日的課題について説明し、看護師としての自己のキャリアを考察することを目標とし、がん看護外来、がん相談支援センター、放射線治療室、化学療法室、がん患者サロンでの実習と、緩和ケアチームの同行実習をした。また、実習を通じた学習成果をグループとしてとりまとめてプレゼンテーションを実施した。次年度もがん看護の専門性やキャリアについて効果的に学習できる実習を目指す。

【小児看護学領域】

1. 教育方針

健康・不健康を問わず、子どもとその家族に応じた専門的知識に基づく支援ができる能力を養うと共に、社会を取り巻く様々な変化の理解を目的とし、小児看護学概論・小児看護実践論・小児看護学実習の3科目の構成。

2. 科目名

1) 小児看護学概論：2年次後期

(1) 担当教員 中島美津子、玄順烈、永井史織

(2) 教育内容

現代の小児看護の役割と課題の明確化を目的とし、小児各期の成長・発達理論、小児医療の歴史の変遷、倫理、理念および身体機能を学ぶ全回対面講義。毎回グループワークを実施。子どもを取り巻く社会の変化を反映させた外部講師からのリアルな現場の話や時事問題に関するテーマでのディスカッションもあり、アンケートでもグループでの学びの共有や生の講義が好評であった。次年度も社会変化に則した講義展開としたい。

2) 小児看護実践論：3年次前期

(1) 担当教員 中島美津子、玄順烈、永井史織

(2) 教育内容

子どもの健康障害の回復や成長発達の促進に向けた子どもとその家族の援助方法を理解することを目的とし、子どもの病状や経過、子ども特有の症状に応じた看護実践に必要な基礎的知識を学び、全回対面講義。急性期から終末期までの経過別、障害のある子どもとその家族の看護などの実習事例や国家試験対応事例など関連する3つの技術演習を実施。次年度も実習や国家試験に繋がる事例とその技術演習を展開したい。

3) 小児看護学実習：3年次後期

(1) 担当教員 玄順烈、中島美津子、永井史織

(2) 教育内容

小児看護に必要な基礎的スキルの実践を目的とし、1週間病棟1週間保育園での実習とし、東京医療センター5B病棟、成育医療研究センター、世田谷区立保育園45園で実習。保育園児と入院中の子どもとの比較や学内での学びの共有、指導者と教員や多職種とのカンファレンスを通じて、子どもが示す反応の意味、子どもの力を発揮させる援助の工夫、家族との情報共有方法、非言語的コミュニケーションなどの学びの深まりがみられた。

(199文字)

【選択科目】

1) ボランティア論：2年次生

(1) 担当教員 玄順烈

(2) 教育内容

ボランティアの自発性と自己成長の意義を学び、医療・福祉での専門的活動とコーディネートのあり方を考察することを目的とし、42名の学生が履修した。調査、発見、体験実習を通して学生は「相手の立場に立って考える姿勢」と「主体的な行動力」を習得した。活動後の振

り返りでは、今回得られた知見が、将来の看護現場において患者一人ひとりに寄り添うケア（個別性のある看護）の実践に直結するとの認識が多くの学生に共有された。

【母性看護学・助産学領域】

1. 教育方針

女性のライフサイクル（乳幼児期・思春期・成熟期・更年期・老年期）およびマタニティサイクルにある妊娠・分娩・産褥・新生児の生理・病態と母子およびその家族への援助理論と方法について学ぶ。

2. 科目名

1) 母性看護学概論 2年次後期

(1) 担当教員 渡邊 香、小嶋奈都子、戸津有美子、鬼澤宏美

(2) 教育内容

内容は母性の概念、セクシュアリティ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、母性看護の歴史と母子保健統計、母性の倫理的課題、女性のライフサイクル各期の健康問題と看護であった。講義の他に周産期の倫理的課題に対する事例検討を実施し、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを用いた。次年度も講義内容と教材を精選し、ICT活用とアクティブラーニングの実施に取り組む。

2) 母性看護実践論 3年次前期

(1) 担当教員 佐藤いずみ、渡邊 香、朝澤恭子、小嶋奈都子、戸津有美子、浅井百合絵、鬼澤宏美、勝山なおみ

(2) 教育内容

内容は主に妊娠期・分娩期・産褥期のある女性と新生児に対する看護である。授業では、アクティブラーニングの手法として TBL を取り入れた。事前学習および講義での学習をもとにチームで課題に取り込むことで学びが深められるように支援した。母性看護過程演習においてもグループ毎に課題に取り組み、教員からのフィードバックだけでなくポスターセッションを通して、他グループの発表から自らの学習を振り返り学びを深めた。技術演習の際には教員からの個別指導を行い、技術の獲得に努めた。次年度も講義内容と教材を精選し、CT 活用とアクティブラーニングの実施に取り組む。

3) 母性看護学実習 3年次後期

(1) 担当教員 渡邊 香、朝澤恭子、小嶋奈都子、戸津有美子、浅井百合絵、鬼澤宏美、勝山なおみ

(2) 教育内容

東京医療センターおよび成育医療研究センターにおいて臨地実習を 90 時間実施した。学生は産後入院中の母子 1・2 組を受け持ち、看護過程を展開するとともに、母子の健康状態の観察、褥婦への癒しケア、新生児の沐浴またはドライテクニック等の看護を実践した。一部の学生は妊婦の健康診査の実践および分娩期のケアも行った。次年度は沐浴や分娩見学等がより多く実施できるよう調整する。

4) 疾病と治療Ⅳ 2 年次前期

(1) 担当教員 佐藤いずみ、明石真言、門間哲雄

(2) 教育内容

内容は内分泌疾患、女性生殖器疾患、泌尿器疾患における病態生理と治療、看護であった。解剖学・病態生理学等の知識を想起させ、関連づけて体系的に学ぶように計画した。講義では病態生理の図解、反復強調、動画や静止画の視聴、ミニテスト、国家試験問題の解説を工夫した。乳房モデルを用いた自己検診体験などのアクティブラーニングも取り入れた。次年度も知識の定着を促す工夫をし、ICT とアクティブラーニングを取り入れる。

【精神看護学領域】

1. 教育方針

精神・身体・知的を含む三障害の概念や特性の理解を目的とし、歴史的背景や基礎的知識、看護援助の習得に関するカリキュラムを実施している。障害者を取り巻く現状や課題に、主体的な言動ができる態度を身につけてほしいと願っている。

2. 科目名

1) 看護倫理 1 年次後期

(1) 担当教員 田中留伊、上國料美香、玄順烈、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

本科目は看護実践における倫理の重要性や倫理的課題の解決方法を理解し、人権擁護の視点から、看護師としての責務を果たせる専門職の育成を目的としている。医学的知識や実習経験が少ない 1 年次後期科目のため、授業では身近な事例や問題を提示し、倫理的問題に対する関心を高められるよう工夫を行った。また、授業終了後は小レポートの提出を求め、双方向の授業を心がけた。次年度も引き続き上記の取り組みを行っていききたい。

2) 臨床コミュニケーション論 2 年次前期

(1) 担当教員 田中留伊、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

自己のコミュニケーションに関する洞察及び啓発を目的とした科目である。日常場面のコミュニケーション技術について、陥りがちな課題に焦点を当てながら、段階的に実際の臨床場面

での効果的なコミュニケーションを考察できる構成とし、主体的に参加できるよう体験型授業展開を行った。次年度以降も、専門的且つ相手の立場に立った自分らしいコミュニケーションを常に模索していけるような授業展開を心がけていきたい。

3) 精神看護学概論 2年次後期

(1) 担当教員 田中留伊、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

精神看護に関する初学者であるため、理解しやすい用語や内容で関心が持てるよう心がけた。こころの働きや精神的健康、障害の概念や歴史的背景が理解できるよう工夫した教材を用い、精神障害者の健康増進・ノーマライゼーションを推進するために必要な基礎的知識を習得できるよう展開した。授業内で発言できる機会や授業終了後の小レポート提出など学生が主体的に取り組める配慮を行った。次年度も引き続き上記の取り組みを行っていきたい。

4) 精神看護実践論 3年次前期

(1) 担当教員 中村裕美、田中留伊、菅原裕美

(2) 教育内容

精神障害を持つ対象の理解が深まるように、主な精神疾患や症状についてオリジナルの教材を用いて授業を展開した。また、精神障害をもつ対象の支援に必要な看護技術が考えられるよう個別で事例展開をし、全体で発表会を行うことでアクティブラーニングを取り入れ学習を深めた。さらに、授業後の小レポートの内容を踏まえ次回の授業では学生の理解しにくい点を補足できるような工夫を行った。次年度以降も上記取り組みを継続していきたい。

5) 障害者看護論 3年次後期

(1) 担当教員 中村裕美、田中留伊、菅原裕美

(2) 教育内容

精神・身体・知的の三障害を持つ対象を理解できるように、オリジナルの教材にて授業を展開した。神経難病及び筋ジストロフィーの具体的な看護実践や支援については、臨床で看護を実践している講師を招き、生きた看護を学べるよう工夫した。また、実習での経験や本授業で習得した知識を基に障害者観に関するグループワーク及び発表会を実施し、個々の障害者観を深める機会とした。次年度以降も上記取り組みを継続していきたい。

6) 精神看護学実習 3年次後期

(1) 担当教員 田中留伊、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

精神障害者を包括的に理解するとともに、自立や自己実現に向けた看護が実践できる基礎的能力を育成することを目的とし、病院及び就労継続支援事業所等で実習を展開した。学生は受

け持ち患者を通して看護過程の展開を行い、また、m-ECT や多職種カンファレンス等を見学したことで、精神医療の実際及び保健医療福祉チームの現状や課題について考えることができた。今後も、実習指導者との連携を密に行い効果的な指導を検討していきたい。

【地域看護学】

1. 教育方針

地域看護学領域では、地域で暮らす様々な健康段階にある人々が主体性をもち生活するために必要な支援について、理論や技術および諸制度を通して学ぶことを目的とする。科目は、地域看護学と在宅看護学で構成される。

2. 科目名

1) 地域看護学概論 1年次前期

(1) 担当教員 岸恵美子

(2) 教育内容

人々の生活の質の向上とそれを支える健康で安全な地域社会の構築、健康と安全を支援することにより生活の継続性を保障し、生活の質の向上に寄与できるよう具体的な事例を示しながら演習し展開できる内容とした。多様な場で生活する様々な健康レベルにある人々を対象とし、その生活を継続的・包括的にとらえることができるようアセスメントの視点も含めて学ぶことができるようグループワークも取り入れた。次年度も、地域で生活する人々を理解し、地域包括ケアシステムに貢献できる看護職となることを目指し、支援のための知識や技術について、学生が主体的に学べるよう、演習等を取り入れた授業展開を工夫していく予定である。

2) 自立支援教育論 1年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

健康教育の方法、健康行動に関する理論を示し、健康課題を抱えた対象に対して、自立支援へとつなげる具体的な手法を講義で展開した。地域住民を対象と設定し、健康教育の企画、媒体作成、実施について学生が取り組み、グループで対象者や媒体を選定して、地域住民に実施することを想定した演習を行っている。次年度も ICTを活用し、アクティブラーニングを取り入れた演習を行い、学生が主体的に取り組めるように支援していきたい。

3) 疾病予防看護学 2年次前期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

プライマリヘルスケアやヘルスプロモーションの基本的考え方、Social determinants of health と健康増進施策、健康格差について、法改正や国際的課題も含めて講義を構成している。

行動経済学、ナッジ理論についても説明した後、演習を実施し、健康行動の変容について考え、学んでもらうことに努めた。説明方法を工夫すること、実際に学生に課題取り組んで考えてもらうことが、学生の理解度が高くなると感じたため、次年度も学習成果を確認しながら、体験的理解を促せるように展開したい。

4) 在宅看護学概論 3年次前期

(1)担当教員 岸恵美子、永井智子

(2)教育内容

高齢化の進行、慢性疾患の増加、多死社会を背景として、在宅看護が担う役割について、法律制度などの社会的側面と、個別事例に基づくケアマネジメントの実践的側面の双方から授業を展開した。特に、地域包括ケアシステムとの関連、家族形態の変化、災害対応等に焦点を当て、学生が具体的な実践場面を想定できるよう授業を展開した。また、地域包括支援センターの専門職を講師として招き、認知症サポーター養成講座を実施してもらい、地域における支援体制への理解を深めた。さらに、リアクションペーパーの活用とそのフィードバックを授業に取り入れ、学生の省察を促し、学びの定着を図った。次年度も学生のレディネスを確認しながら、主体的に学びを深められるように授業内容や方法を工夫していく。

5) 在宅看護実践論 3年次後期

(1)担当教員 駒田真由子、岸恵美子、森山潤

(2)教育内容

在宅看護におけるコミュニケーション、医療ケア、災害対策、疾患別の看護など事例や映像を用い、既習の知識の統合と応用が図れるよう工夫した。実習に向けての準備として、地域ケア会議のロールプレイング、ペーパー事例のケアマネジメント演習、在宅看護過程の展開などを通して在宅看護の知識と技術を身につけるための演習を行った。外部講師による、訪問看護ステーション開設・運営の基礎等の講義により、将来的な訪問看護の可能性についても理解を促した。来年度も今年度のフィードバックを受けて改善していく予定である。

6) 在宅看護学実習 3年次前期

(1)担当教員 岸恵美子、駒田真由子、永井智子、森山潤

(2)教育内容

新カリキュラムとなり、昨年度より各論実習に組み込まれて3年生後期で実施している。実習では、療養者・家族が自立した生活を営むために必要な保健・医療・福祉の連携の実際を学び、最終課題として地域包括ケアシステムの中の看護の役割を考察することを促している。昨年同様、看護過程の進め方や記録の進め方、実習態度に課題が残るものの、各論実習を通して成長する学生に合わせて指導をしていく必要性を感じた。次年度も学生が積極的に学べるように支援していきたい。

6-2. 大学院看護学研究科

【高度実践看護コース】

1. 教育方針

クリティカル領域における診療看護師（NP）の役割を理解し、専門性の高い、高度な実践力をもって役割を遂行できる能力を習得した診療看護師を育成することを目標としている。チーム医療の一員として患者の状況・病態を的確に把握し、自ら考え、判断し、安全性を確保した上で、必要な診療行為・ケアが確実に提供でき知識・技術・態度を習得する。今年度は、演習、実習の一部を、本コースの修了生（診療看護師：NP）で、臨床現場で活躍している診療看護師（NP）が分担し、年2回開催した臨床教授会にも、一昨年度から臨床実習指但し、実習中自己都合等で、1行為の実践が5症例に満たなかった場合は、特定行為の認定証明ができないこともあります。

2. 科目名

1) クリティカルNP特論 1年次前期

(1) 担当教員 山西文子、浦中桂一、忠雅之、武田純三、鈴木美穂

(2) 教育内容

NPを導入している先進国、とくに米国におけるNPの現状等を把握するために、米国で実践活動をしているNPやNPと活動した経験をもつ医師等の講義を受け日本における診療看護師の現状および課題等について理解を深めた。統合実習の前後にて特定行為に関する手順書を作成し、医師も含めたスーパーバイズを受けた。診療看護師（NP）を取り巻く行政や各学会の動向について適時、学生に情報提供および指導内容に含めていく必要がある。

2) 人体構造機能論・演習 1年次通年

(1) 担当教員 忠雅之、石志紘、白石淳一、久保田義顕、川岸久太郎

(2) 教育内容

クリティカル領域における人体の機能や構造に関する基礎知識を習得するため、各学生が各臓器や疾病の病態生理を担当し、特定の行為に関連する解剖生理のプレゼンテーションをおこなった。発表後は各専門医の講師からアドバイスや指導を受ける形式とした。さらに解剖見学と解剖見学演習を通して人体の構造を肉眼的に観察し、知識の理解を深め習得することができた。2年次の統合実習に向けて良い動機付けとなるよう心掛けた。

3) クリティカル疾病特論 1年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、忠雅之、牛窪真理、小林佳郎、上野博則、池上幸憲、須河恭敬、吉川保、安富大祐、谷本耕司郎、樅山幸彦、門松賢、川口義樹、福原誠一郎、山根章、小山田吉孝、林拓郎、古野毅彦、栗原智宏、鈴木亮

(2) 教育内容

クリティカル領域において頻度の高い疾患について、医学的根拠に基づく判断能力と問題解決能力を修得するために、各疾病の病因、病態生理等の基礎的な知識を学んだ。具体的な授業展開は、グループ毎に課題症例を設定し、文献的な検討を行いながら、講師から指導を受け、プレゼンテーションを行い、発表後に講師から指導をうける形式で行った。さらに学生の学修効果を高めるためには、事前学修、事後学修の徹底を図る必要がある

4) 診察、診断学特論(包括的健康アセスメント) 1年次前期

(1) 担当教員 小野孝二、山西文子、尾藤誠司、上野博則、樺山幸彦、栗原智宏、白石淳一、北沢敏男、長谷川栄寿、奥田茂男、武山茂、福原誠一郎

(2) 教育内容

患者の病態に対応した症状アセスメント、診察ができるための知識を習得することを目的にした科目である。診察、生理学的諸検査で得られた所見等を用いて、診断が確定できる能力を修得することができた。個々の患者に対応した的確な診察の方法、診断のために必要な臨床検査の選択、検査結果の解釈、撮影から読影迄のプロセスと医師による読影法などを学び、診断のプロセス等を実際のデータ等を使用して理解を深めることができた。

5) フィジカルアセスメント学演習 1年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、忠雅之、小山田吉孝、池上幸憲、安富大祐、鄭東孝、森岡秀夫(2) 教育内容

患者の健康問題を解決する上で必要とされ、身体的・包括な機能評価のためフィジカルイグザミネーションについて、学生がインストラクターとなってグループ学習を展開した。アクティブラーニングを対面授業にて展開したが、今後は後半の医師の講義に先立ち前半のまとめにて臨床推論の要素をより多く取り入れて疾患を思考する身体診察する時間を設ける必要がある。

6) 臨床推論 1年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、忠雅之、鄭東孝、山下博、鈴木亮、吉田心慈、南修司郎、安富大祐、太田慧、栗原智宏、上野博則、辻崇、古野毅彦、吉田哲也、野田徹、三春晶嗣、門間哲雄

(2) 教育内容

クリティカル領域で遭遇する症状や状態に応じた臨床推論ができるよう、その過程を学び、それを裏付けるためのフィジカルアセスメント・検査を行い、症状に応じた的確な判断・臨床推論ができるための知識・技術を習得する。臨床推論の実際について、事例を用いて医師の思考過程についても理解を深める。最も多い時間をかけて学修するように臨床教授の医師も積極的に協力してもらい、実習時に繋がるような指導をしてもらっている。

7) 診断のためのNP実践演習 1年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、山西文子、忠雅之、奥田茂男、鈴木亮、太田慧、鄭東孝、林智史、

安富大祐、池上幸憲、栗原智宏、辻崇、早川隆宣、高以良仁、森泉元

(2) 教育内容

クリティカル領域において対応する可能性の高い患者のフィジカルアセスメントができ、必要とされる臨床検査の選択を安全かつ確実に実践するための知識、技術の修得を目的とする。特定行為2行為について実技試験を実施し履修生の技術習得度を評価した。今後は授業内容と関連させて評価方法を洗練していく必要がある。患者の実際の画像を用いて画像診断の進め方、トリアージの概念、機能、方法を学ぶ学生たちが診療行為(特に省令に定められた特定行為)毎の手順書を作成し、臨床実習の際の資料として活用し統合実習の際の指導医師の理解も深まりつつある。

8) 臨床薬理学特論 1年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、忠雅之、廣田孝司、青山隆夫、大島信治、池上幸憲、吉川保、福原誠一郎、須河恭敬、岩田敏

(2) 教育内容

本科目はクリティカル領域で使用頻度の高い薬物療法について確認し、各種薬物と生体との反応機序、薬物の効果に個人差が生じる要因等について理解し、安全な治療を進めるために必要な知識を身に付けることを目標とする。外部講師による講義で薬事法を含む薬物の安全管理と処方について理解を深め、更に、臨床現場の専門医から指導頂いた。学生には苦手意識が見られるが、動機づけはされたので、今後は各学生の個人学修に拠る。

9) 治療のためのNP特論 1年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、忠雅之、安村里絵、吉川保、川口義樹、小山孝彦、林拓郎、大迫茂登彦、石志紘、樺山幸彦、太田慧、大島久二、山下博

(2) 教育内容

クリティカル領域の患者に対する治療法およびその適応について科学的根拠に基づいて理解する科目である。治療の生体へのメリット、デメリットを理解し、治療の立案、変更、終了などの判断が的確に実行できるための知識を修得することができた。消化器系手術、呼吸器系手術、脳の手術、心・大血管系の手術を取り上げ、手技に関する基本的事項、輸血、感染予防などを専門医から直接指導を受けることができた。

10) 治療のためのNP実践演習 1年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、山西文子、忠雅之、池上幸憲、佐々木毅、小井土雄一、岩田敏、太田慧、木下貴之、宮田知恵子、須河恭敬、小山田吉孝、吉川保、栗原智宏、川口義樹、落合博子、小山孝彦、若林和彦、鄭東孝、安富大祐、鈴木亮、森岡秀夫、大迫茂登彦、門松賢、中村真樹、高以良仁、森泉元、筑井菜々子、他 JNP2名

(2) 教育内容

選択した治療法の科学的な根拠を理解し、患者への説明と、患者の同意のプロセス、選択した治療を的確に実行できるための技術を修得する。また、治療の際の診療看護師としての役割と限界を認識することの重要性を学んだ。今後も救急・重症患者の管理方法、集中治療の管理方法、がん化学療法とペインコントロールの方法、人工呼吸器・気管挿管・抜管・縫合・圧迫止血・経腸栄養・中心静脈ライン確保・褥瘡の治療方法などの処置等について、適用する目的、手順を、演習を通して学べるよう学習環境を整えていく。また特定行為6行為について実技試験)を実施し履修生の技術習得度を評価した。今後は授業内容と関連させて評価方法を洗練していく必要がある。

11) 統合演習 2年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、山西文子、忠雅之、高以良仁、石渡智子、TA 数名

(2) 教育内容

救急外来、内科外来、一般病棟における診療看護師(NP)としての役割や臨床推論を活用した患者の病態や必要な検査・治療について考えることができることをねらいとした。これまでの看護経験と1年間学修してきた医学知識を統合し、外傷事例、心窩部痛事例、呼吸器疾患事例を用い、リーダーシップ、メンバーシップをとりながらチームパフォーマンスが最大限に機能できる基本的能力を養う内容とした。

12) 統合実習 2年次通年

(1) 担当教員 山西文子、浦中桂一、忠雅之、東京医療センター・災害医療センター・東京病院の臨床教授、JNP 実習指導者他

(2) 教育内容

2年次7月から12月中旬までで17週間、国立病院機構東京医療センター、災害医療センター、東京病院の3施設において、救命救急科、総合内科、外科、麻酔科の各診療科をローテーションし、計17週の実習を行った。実習では、実習指導医の指導のもとで、患者を受け持ち、患者の診察・診断、治療の一連のプロセスを経験した。1年次に講義、演習を通して学んだ知識と技術を統合し、チーム医療の一員としての診療看護師の役割を意識しながら、実習に取り組んだ。学生が作成した38の特定行為の手順書を施設に提示し、省令に定められている38の特定行為の実践経験を積み重ねるなど、積極的に取り組んだ。臨床指導医からの実習の評価も高く、全員が無事実習を修了することができた。統合実習の開始前、および終了後に本学およびオンライン形式において、計4回の臨床教授会を開催し、本学の教員も参加し、意見交換を行った。

13) コンサルテーション・インフォームドコンセント特論 1年次後期

(1) 担当教員 忠雅之、尾藤誠司、木下貴之、岩田敏、宮田知恵子

(2) 教育内容

医療におけるコンサルテーションとインフォームドコンセントのもつ意味を理解し、患者の状況に対応して説明できる知識と実践方法を学修することができた。状況に応じたインフォームドコンセントの実際の医療場面の説明方法と内容の課題を受け、ロールプレイ通し、説明の内容の根拠から患者が納得するプロセスをたどれるよう具体的な実践方法を習得することができた。2年次の統合実習に向けて実践につなげる良い動機付けとしたい。

14) NPによるチーム医療特論 1年次前期

(1) 担当教員 忠雅之、林哲郎、中村香代、川村和也、島田珠美

(2) 教育内容

医師をはじめ専門看護師、クリティカル、プライマリ・ケア、周術期の高度実践看護師や管理者におけるチーム医療の在り方を学修した。またGWを通して日本の医療機関の現状分析をおこない、外部環境と内部環境の視点から問題を取り上げ、チーム医療のガイドライン作成につなげる内容の発表をおこなった。この結果から、今後の新しいチーム医療の在り方について自己の考えを明確にすることができた。

15) 医療安全特論 1年次後期

(1) 担当教員 山西文子、忠雅之、木下貴之、岩田敏、松浦友一、渋谷直子

(2) 教育内容

医療事故等は、日常的に起こる可能性があることを認識し、事故の発生を防止し、患者の安全が最優先事項であることを理解することができた。医療事故を防止するためには、医師の指示を批判的に思考する力、危険を回避するために医療行為の優先度を決定する力、患者に不利益な状況が生じている場合に対象に情報提供できる力、対象が受ける治療や処置に伴う有効性や危険性を患者が分かるように説明できる力などを習得することが必要であることを学んだ。GWを通して日本で実際にあった特定行為に係る事例を取り上げ、既存の理論を使用して分析し、主要な原因や関連する要因、解決までのプロセスについて検討し、その結果を発表し、全体で討議行う形式で進め、事故の発生を防止するためのさまざまな方策を修得することができた。

16) 政策医療特論 1年次前期

(1) 担当教員 山西文子、松本純夫、女屋光基、石原傳幸、當間重人、笠原群生、

(2) 教育内容

政策医療とは何か。国が医療計画を立てて、我が国の国民にどのような医療提供体制を準備しているか。国民の為に意図的に行われている医療の特徴、治療技術の最前線で戦っている医療関係者の話を通して、現在の医療の各種特徴が見えて、そのような医療提供の場においても医療者の一員として力が発揮できるように期待している。今回は成育医療センター笠原病院長、国立がん研究センター島田病院長に最前線の取り組みを伺った。

17) 感染症マネジメント 1年次後期

(1) 担当教員 山西文子、大曲貴夫、岩田敏

(2) 教育内容

感染症に関して、原因となる病原体についての特徴、ヒトに感染したときの症状の現れ方や特殊な状態などあらゆる側面について講義で知識の確認をし、ここ数年流行しているコビット-19の流行の特徴。感染防止対策の方法、治療の実際等興味深い知見が得られた。我が国における法的な対応策等の実態も得ることが可能であった。後半はグループになり、救急外来で遭遇する感染症に焦点を当てて、それぞれ7つの課題を臨床推論し具体策まで考えて、更に深めて発表会を実施。得るものは多く有意義な単位であった。

18) 医療倫理特論 1年次前期

(1) 担当教員 手島恵

(2) 教育内容

高度実践看護を提供する際に求められる倫理的実践の基盤として必要な知識を概説した。また、各コースの看護職が実践を行う中で直面した特徴的な事例を取り上げ、臨床倫理の4分割法等の理論を援用しながら検討・考察を行った。その上で、各自が実践の際に直面した倫理的課題を事例としてまとめ、コースごとの小グループで当事者や患者にとって最善の方策について検討し発表・共有を行った。次年度は各コースの専門的視点を活かした検討ができるよう工夫したい。

19) ラボラトリー・メソッド特論 1年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、明石眞言

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も、最新の科学研究で使用される手法について、その原理や利用方法などを概説し、生命現象について科学的に正しく理解できるように工夫する。

20) 保健医療福祉システム特論 1年次後期

(1) 担当教員 岸恵美子、永井智子、非常勤講師

(2) 教育内容

保健医療福祉分野における法制度及び政策決定プロセスを学習するため、社会保障システムを主軸に様々な統計データを用いた学習を行った。これらの知識を踏まえ、学生が関心のあるテーマをグループで選定し保健医療福祉領域の政策提案・システムづくりに関するプレゼンテ

ーションを実施した。上級実践看護（NP）コース、看護科学コース、と合同で行う授業であり、学生間の意見交換が活発化し、効果的な学習となった。次年度も学生の視野の拡大、思考の深化を目指したい。

21) 看護管理学特論 1年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子、松本和史

(2) 教育内容

看護管理の基礎知識、看護管理者の役割・機能を理解することを目標とした。2部構成とし、第1部では看護組織のマネジメント、第2部では看護組織における人的資源のマネジメントについて講義した。これまでに所属した看護組織や実在のリーダーを分析したり、看護管理者としての自己の資質を考察したりする演習も実施した。次年度も、診療看護師として医療チームをマネジメントするうえで役立つ講義を目指したい。

22) 研究特論 1年次前期

(1) 担当教員 手島 恵、小野孝二、田中留伊、竹内朋子、上國料美香、浦中桂一、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

23) 原著論文購読 1年次前期

(1) 担当教員 明石眞言

(2) 教育内容

英文学術論文特に原著論文を読むための基本的な知識・技術を指導した。特に PubMed を活用しながら、医療・看護分野の英文原著論文を自ら探し、読む力および論理的思考力を養い、専門分野に関する情報収集能力を高められるような授業展開を工夫した。その上で、実際にクリティカル領域に関係した原著英文論文を読み、抄読会を行った。来年度も同様の内容で行う予定である。

24) 課題研究 1年次、2年次通年

(1) 担当教員 山西文子、浦中桂一、忠雅之、その他（教授・准教授・講師・助教）

(2) 教育内容

一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆と学会を模した形式の発表会においては抄録やスライドの準備を行い、

成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

学籍番号	指導教員	研究課題
KG024001	中島美津子	看護業務プロセスにおける業務中断の実態と数理モデルによる分析
KG024002	小宇田智子	高脂肪食摂食マウスにおけるウコギ抽出物の腸透過性亢進の抑制
KG024003	新山真奈美	地域医療格差における実態と診療看護師の介入意義 医師への認識とニーズの実態調査
KG024004	玄順烈	特別支援学校における医療安全に関する実態調査
KG024005	中島美津子	三次救急外来看護職におけるストレッチャー移送に関する実態調査
KG024006	松本和史	訪問看護ステーションの看護管理者が特定行為研修修了者に期待する能力と特定行為研修修了者が自認する能力
KG024007	原口昌宏	Walk-in 受診した救急患者の傾向と対策 -National Early Warning Score(NEWS)を用いた緊急度評価-
KG024008	松本和史	一般病棟から ICU への入室経路別にみる患者の状態と転帰：MET コール要請による入室と医師指示による直接入室の比較
KG024009	小野孝二	Peripherally Inserted Central venous Catheter(PICC) および Midline Catheter(MC)のカテーテル関連合併症に関する後方視的観察研究
KG024010	玄順烈	モーションヒストリー機能を活用した遷延性意識障害患者の刺激に対する表情変化の検証
KG024012	忠雅之	麻酔科研修時における診療看護師の全身麻酔管理に関連した時間への影響
KG024014	高橋智子	看護師の NP 教育課程を有する大学院への進学動機および修了後の活動-NP 教育課程修了者への調査を通して-
KG024015	田中留伊	地方病院に勤務する診療看護師 (NP) が抱く心理的特徴に関する研究
KG024016	小宇田智子	高脂肪食摂食マウスにおけるウコギ抽出物のオートファジー活性化と脂質代謝への影響
KG024017	上國料美香	中規模訪問看護ステーションに勤務する看護師が緊急訪問時に行う看護行為-後ろ向き単施設研究-
KG024018	浦中桂一	初発心不全患者の退院後 12 か月間における simple GDMT score の経時的変化と再入院との関連
KG024019	竹内朋子	救急領域の代理意思決定に関する課題

KG024020	松本和史	呼吸回数の測定時間（10 秒法・15 秒法・60 秒法）による差異
KG024021	新山真奈美	心不全患者の退院時教育が転帰に与える影響-心不全多職種チーム導入前後の後方視的比較研究-
KG024022	竹内朋子	OHAT-J と口腔ケアプロトコールに対する看護師によるユーザビリティ評価
KG024023	浦中桂一	二次救急外来における診療看護師主導ケアと初期臨床研修医主導ケアにおける患者の救急外来滞在時間の比較～めまいを主訴とする患者に焦点をあてて～
KG024024	原口昌宏	小学校教職員の胸骨圧迫に関する認識と実践の変化-視聴覚フィードバック（Audio Visual Feedback）デバイスを用いて-
KG024025	上國料美香	看護師の職業キャリア成熟と診療看護師に対する関心の関連-クリティカル領域に勤務する 1 年目から 5 年目看護師に着目して-
KG024026	小野孝二	家族の集中治療後症候群（PICS-F）の看護に関する文献研究
KG024027	田中留伊	ICU で活動する診療看護師（NP）が行う緩和ケアにおける倫理的意識決定支援

25) 保健統計学 1 年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、原口昌宏

(2) 教育内容

研究論文の講読や分析の実施において必要な統計学の基本的な性質や考え方を理解し、統計ソフトを用いたデータ分析の統計手法を学ぶことを主な目標とした。基本的な統計解析についてグループで調べ発表とディスカッション形式で一部展開した。既存の演習データを用いて、単変量解析および回帰分析について統計ソフトの実践演習も実施した。今後は、ディスカッションがより活発になるような授業内容・環境の構築が必要である。

26) 看護教育学特論 1 年次後期

(1) 担当教員 上國料美香、浦中桂一

(2) 教育内容

看護基礎教育および継続教育に関する看護教育制度の概観を講義するとともに、教育原理・方法の基礎知識の修得に向け、協同学習を基盤としたアクティブ・ラーニングを取り入れた。また、小グループによる授業設計、模擬授業の実施、成果に対する相互評価を含む討議を組み込んだ。さらに、高度実践看護職として教育的役割を果たすための課題を整理するレポートを設けた。次年度は指導案作成過程への支援充実を図りたい。

【高度実践助産コース】（助産師免許プログラム・助産師プログラム）

1. 教育方針

専門性の高い実践力を備え、女性とその家族の生涯にわたる健康を支援できる自律した助産師の育成を目的としている。特に周産期における病院内外の助産システムに対応できる専門性の高い助産師の育成を目指す。

2. 科目名

1) 助産学概論 1年次前期

(1) 担当教員 渡邊 香

(2) 教育内容

助産の基本概念と歴史的変遷から概説し、女性を取り巻く社会背景を認識し、助産師の責務と社会変化の中で期待される役割の重要性、さらに助産師活動に取り組む姿勢と、それらを支えるために必要な看護政策を含め系統的に教授した。次年度も女性を取り巻く課題、母子保健の課題、医療政策・看護政策について講義とディスカッションを織り交ぜながら助産師としてのアイデンティティを獲得する動機づけとなるよう講義を工夫する。

2) 生殖機能学（正常・異常） 1年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、山下博、大野暁子、真壁健、栗原みずき、家谷佳那

(2) 教育内容

女性生殖器の解剖・生理、女性のライフサイクルを通じた性と生殖の健康問題、疾患及び異常に関する基礎的な知識の理解を深める講義を行った。また、助産師国家試験にて出題が増加している妊娠期の異常と婦人科疾患について頻出問題に関する講義内容を強化した。

3) 助産薬理学特論 1年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、三浦寄子、中島研、伊藤直樹

(2) 教育内容

薬理学の総論と基礎、妊産褥婦を対象とした和漢薬物の効用、副作用、併用禁忌、拮抗作用、投与方法、服用方法等について情報検索エンジンも含めて解説し、妊婦や授乳婦における催奇形性、胎児毒性、授乳中の安全性について薬物使用上の管理および留意点について理解を深め、各自が活用できるように講義をおこなった。近年の増加している無痛分娩については麻酔薬等に関する基礎知識を学んだ。

4) 助産栄養学特論 1年次通年

(1) 担当教員 朝澤恭子、浅井百合絵、北島幸枝

(2) 教育内容

健康な女性の心と身体作りのための食事のあり方や出産適齢期の食生活の現状と課題を通し

て、健康な女性の身体作りに必要な栄養管理の知識を習得できるように講義をした。さらに、日本人の食事摂取基準を基本に、栄養アセスメントと栄養管理方法、人工栄養の特性と問題点、補完食の進め方について学んだ。調理演習では減塩食の工夫、貧血予防食の調理、調乳を行った。

5) 家族社会学特論 1年次通年

(1) 担当教員 渡邊 香、松島紀子

(2) 教育内容

家族社会学についての基礎的な概念や内容を学び、現代の家族問題への理解と社会的対応について整理し、共働き家族、高齢者介護、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなどの現代の家族問題について理解を深めた。さらにリプロダクティブ・ヘルス/ライツに影響を及ぼす要因について学び、家族社会学の視点からエンパワーメントを進める方策について講義を行った。

6) 助産フィジカルアセスメント学演習 1年次通年

(1) 担当教員 戸津有美子、服部純尚、松井哲、朝澤恭子、浅井百合絵、勝山なおみ

(2) 教育内容

妊娠・分娩・産褥期を通して変化する女性の身体を理解する為に、フィジカルイグザミネーションの技術を用いて周産期の女性の全身の包括的アセスメント、正常異常の判断の実際について演習を通して教授した。また、乳がんの基礎知識、診察技術についての講義・演習を行った。

7) 助産臨床推論 2年次前期

(1) 担当教員 渡邊 香、朝澤恭子、梅原永能

(2) 教育内容

助産における臨床推論の意義を理解した上で自立的な判断スキルを持つ助産師の育成を目的に、講義演習を行った。臨床推論の意義、臨床推論における思考のプロセス、臨床推論事例の展開（妊娠期から産褥期）を繰り返し行い臨床推論を用いた考え方のトレーニングを行った。さらに、妊娠中の異常を想定した具体的事例に対しチームとして臨床推論を行い、思考の過程を明確にしながらかケア提供まで自立して行う演習を行った。

8) 妊娠期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 渡邊 香、和田誠司、戸津有美子、小嶋奈都子

(2) 教育内容

妊娠期における女性の心身の生理的変化と妊娠期に起こりやすい異常、胎児の成長発達に関する基本的知識から胎児診断と胎児治療に関する知識まで幅広く知識を習得できるよう講義お

よび演習を行った。

9) 分娩期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 渡邊 香、服部純尚

(2) 教育内容

分娩期における女性と胎児の生理的プロセスと生理的状态からの逸脱を診断する知識と分娩介助法と助産ケアの技術を習得する目的で、講義・演習を実施した。更に、産痛緩和法など女性に寄り添う助産実践力の向上に力を注ぎ、分娩期における助産師の判断能力と技を考察できるよう工夫した。高度実践助産を目標に、異常産婦の管理とケアを取り入れ、近年増加するハイリスク産婦の管理の知識獲得ができるよう、講義演習を展開した。

10) 産褥期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 戸津有美子、渡邊 香、小林浩一、浅井百合絵

(2) 教育内容

産褥期女性の身体的・心理的・社会的変化に応じた助産診断とケアを行うための基本的な知識と技術についての講義、演習を行った。近年、子ども虐待の予防対策が求められていることから、産後うつ等の基本的知識と周産期や地域での対応について講義を強化した。母乳育児支援として、乳房管理の理論と乳房ケアの基本技術の演習を行った。次年度は具体的な産褥期の女性のケアをできるよう講義演習を充実させる。

11) 新生児期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 小嶋奈都子、加部一彦、戸津有美子、勝山なおみ

(2) 教育内容

新生児の生理、発育、生理機能・運動機能・精神機能の発達について知識を習得するための講義を行った。臨床で遭遇する可能性の高い新生児の異常や、ディベロップメンタルケア、NICUの看護について演習を交えて学ぶ機会を提供した。また、児の成長発達に応じた事故予防について、ディスカッションを取り入れ学びを深めた。次年度も、実践に役立つ学習になるよう、胎児期からの予測を踏まえた新生児ケアの理解を促す。

12) 助産診断・技術学演習 1年次前期

(1) 担当教員 渡邊 香、馬場一憲、佐藤いずみ、朝澤恭子、戸津有美子、小嶋奈都子、鬼澤宏美、浅井百合絵、勝山なおみ

(2) 教育内容

妊娠期～産褥期・新生児期の助産診断と助産過程の基本と展開、妊娠期の保健指導・支援、正常分娩介助法の演習、胎児心拍陣痛図による胎児診断、助産師のための超音波検査、母子の生活支援と保健指導について学んだ。

13) 実践助産学特論 1～2年次通年

(1) 担当教員 渡邊 香、戸津有美子、大原玲子、武山 茂

(2) 教育内容

医学・助産モデルの両方の視点から助産診断・助産ケアを可能にするため、Team STEPPS、超音波検査法の基本、産科麻酔の実際、産科救急への対応、妊産婦の一時救命処置のためのBLS、新生児の救急蘇生NCPR（Aコース）の講習など、発展的・応用的な知識と技術を学習した。

14) 実践助産学演習 1～2年次通年

(1) 担当教員 小嶋奈都子、朝澤恭子、戸津有美子、鬼澤宏美、浅井百合絵、勝山なおみ、小澤克典、

(2) 教育内容

妊産褥婦のケアの充実に向けた実践的かつ、発展・応用的な内容の授業を行った。理論及び技術に関する講義に加えて、演習を多く取り入れることにより、実践力の強化に向けた学びが得られていた。次年度も、学習環境の整備及び調整を行い、受講者が興味・関心を持って積極的に学習ができるように工夫していく。

15) ウィメンズヘルス特論 1年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、渡邊 香、戸津有美子、片岡弥恵子

(2) 教育内容

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、女性のライフサイクルに沿った健康問題に対する助産ケアに必要な基礎的能力を養い、女性の健康を支援するための研究・実践への理解を深め、ウィメンズヘルスにおける助産ケアを追究することを目標に展開した。思春期、成熟期、更年期にみられる健康問題、受胎調節の实地指導に必要な原理・知識・技術に関して、講義に加えてプレゼンテーションとディスカッションにて学習を進めた。

16) ウィメンズヘルス演習 1～2年次通年

(1) 担当教員 朝澤恭子、渡邊 香、佐藤いずみ、小嶋奈都子、戸津有美子、浅井百合絵、勝山なおみ、鬼澤宏美

(2) 教育内容

思春期、成熟期、更年期、老年期、周産期のいずれか特定のライフステージにおいてヘルスケアニーズをもつ女性への健康教育が実施できる事を目的に、健康教育の概論を講義で学んだ。1年次では思春期および更年期の女性への健康教育プログラムの指導案作成、2年次は、健康教育として出産準備教育を実践し、評価を行った。

17) 不妊症・遺伝看護学特論 1年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、戸津有美子、小澤伸晃

(2) 教育内容

遺伝看護の対象となる家族性腫瘍、先天異常、神経難病等の患者および生殖医療の対象者と家族に対するアセスメントやケアを理解することを前提に展開した。主な遺伝性疾患の遺伝形式、クライアントが抱える課題と必要なケア、遺伝的な課題を持つ人々へのアセスメントの視点、不妊症の検査および治療、クライアントが抱える課題とケアに関して講義を進めた。不妊治療を受ける人々へのアセスメントの視点を理解できるよう展開した。

18) 助産管理学特論 1年次通年

(1) 担当教員 渡邊香、岡本登美子、宮下美代子、野町寧都、井出美佳、柳田亜紀子

(2) 教育内容

周産期における具体的な事故・判例から周産期のリスク管理を考察した。組織管理の基本概念とマネジメントの基本的考え方をドラッカー理論から学び、施設助産管理への応用を試みる講義をした。マーケティング理論、医療経済、関連法規及び周産期医療システム、目標管理、総合病院での助産師外来と院内助産システムの実際について、講義及びディスカッション形式で進めた。助産院での講義も行い、助産所の運営の実際と経営を学んだ。

19) 地域助産活動論 1年次後期

(1) 担当教員 渡邊香、戸津有美子、浅井百合絵、勝山なおみ、土屋清志、宮下美代子、氷見知子、永森久美子、藤田恵理子

(2) 教育内容

助産師の開業権を生かし母子および家族のニーズに沿った地域医療・地域助産活動について講義を展開した。満足度の高い「いいお産」の実現のために、助産所におけるフリースタイル分娩の技術を演習にて学び、母乳育児支援の開業助産師による講義を組み入れるなど、多岐にわたる助産活動について体験的に学ぶ機会を取り入れた。

20) 地域母子保健学特論 1年次後期

(1) 担当教員 渡邊香、岸恵美子、福島富士子、小嶋奈都子、戸津有美子、浅井百合絵

(2) 教育内容

地域母子保健の現状と課題、母子保健に関わる地域診断、地域母子保健の活動の実際や産後ケアセンターの活動について講義を行った。加えて、学生が考える日本社会における母子保健の今日的課題について、現状とこれを解決するために必要だと思われる方策、地域での助産師や保健師助産師が地域で果たすべき役割について、討論し学習を深めた。

21) 地域母子保健学演習 1年次後期

(1) 担当教員 戸津有美子、駒田真由子、小嶋奈都子、浅井百合絵

(2) 教育内容

地域母子保健が抱える今日的課題についてグループワークを通して考え、地区診断により地域特性の理解、助産師・保健師として具体的な母子保健事業を考察することができた。妊産婦や乳幼児に対するアセスメントを通して、家庭訪問や保健指導、健康相談における支援の技術も身に付けることができた。

22) 災害助産活動論 1年～2年次通年

(1) 担当教員 戸津有美子、高村ゆ希、赤井智子

(2) 教育内容

自然災害、人為的災害、混合型災害と、近年、増加する災害に対する定義、管理、根拠立法、防災体制など基礎的知識を学習し、災害時の母子に特有の課題、被災地での母子支援について学習した。具体的な助産師の活動および支援策についてディスカッションすることで、各自が平時からの備えを自分ごととして主体的に学習をすることができた。

23) 国際助産学特論 1年～2年次通年

(1) 担当教員 渡邊 香、戸津有美子、勝山なおみ

(2) 教育内容

世界の助産実践と助産教育、母子保健における助産師の役割と実践活動、世界の産育習俗を社会・文化的背景から考察しながら、海外における国際助産活動の実際を学んだ。更に、学生が考える国内外における国際的な母子保健の今日的課題について、現状と必要と考える方策、助産師として果たすべき役割について、レポートにまとめて学習を深めた。

24) 助産学基礎実習 1年次前期

(1) 担当教員 渡邊 香、朝澤恭子、佐藤いずみ、小嶋奈都子、戸津有美子、浅井百合絵、勝山なおみ、鬼澤宏美

(2) 教育内容

国立成育医療研究センター、国立病院機構東京医療センター、国立病院機構埼玉病院、国立病院機構相模原病院で各4週間、4施設で実習を行った。正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過をたどる対象の助産診断、分娩介助の実施、助産過程の展開を目標とした。4週間で4～6例/学生の分娩介助を実施した。

25) 助産実践力開発実習 1年次後期

(1) 担当教員 渡邊 香、朝澤恭子、小嶋奈都子、戸津有美子、浅井百合絵、勝山なおみ、鬼澤宏美

(2) 教育内容

国立成育医療研究センターで5週間、国立病院機構東京医療センターおよび国立病院機構埼玉病院で各4週間、国立病院機構相模原病院で2週間、4施設で実習を行った。分娩介助を中心として、正常経過中の妊娠・分娩・産褥・新生児期を対象に助産過程の展開と実践能力の修得をこの実習目標とした。4～5週間で2～5例/学生の分娩介助を実施できた。

26) 助産実践力発展実習 2年次前期

(1) 担当教員 渡邊 香、朝澤恭子、佐藤いずみ、小嶋奈都子、戸津有美子、浅井百合絵、勝山なおみ、鬼澤宏美

(2) 教育内容

ハイリスク妊婦とハイリスク児を対象とした実習を、国立病院機構東京医療センターの産科病棟・産婦人科外来2週間、国立成育医療研究センターのNICU2日間、MFICU2日間で実習を行った。ハイリスク妊産婦および児について助産診断能力を強化し、ケアを実践することができた。次年度も同様により効果的な実習を調整する。

27) 地域助産学実習 1年次後期・2年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、渡邊 香、佐藤いずみ、戸津有美子、小嶋奈都子、浅井百合絵、勝山なおみ、鬼澤宏美

(2) 教育内容

稲田助産院、さくらバース、とわ助産院、みやした助産院、森重助産院、矢島助産院の6施設の助産院で実習をした。保健所実習は、世田谷区、台東区の各保健センターで実施した。地域助産学実習のねらいとして、助産師の役割、母子に関わる姿勢の根源や助産ケアについて、6週間の期間で、実践を通じて知識と技術を習得した。次年度も同様により効果的な実習を調整する。

28) 医療倫理特論 1年次後期

(1) 担当教員 手島恵

(2) 教育内容

高度実践看護を提供する際に求められる倫理的実践の基盤として必要な知識を概説した。また、各コースの看護職が実践を行う中で直面した特徴的な事例を取り上げ、臨床倫理の4分割法等の理論を援用しながら検討・考察を行った。その上で、各自が実践の際に直面した倫理的課題を事例としてまとめ、コースごとの小グループで当事者や患者にとって最善の方策について検討し発表・共有を行った。次年度は各コースの専門的視点を活かした検討ができるよう工夫したい。

29) ラボラトリー・メソッド特論 1年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、明石眞言

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も、最新の科学研究で使用される手法について、その原理や利用方法などを概説し、生命現象について科学的に正しく理解できるように工夫する。

30) 看護教育学特論 1年次後期

(1) 担当教員 上國料美香、浦中桂一

(2) 教育内容

今年度は、看護職養成に関わる教育制度の理解に加え、高度実践看護職として教育的役割を果たすために必要な教育原理・方法の基礎知識について、院生によるプレゼンテーションを行った。授業設計の実際では、各自が選択した授業テーマについて指導計画・指導案を作成し、模擬授業を展開するとともに他者・自己評価を踏まえた今後の課題をレポートにまとめた。次年度は、指導案作成過程における各自の課題の検討を充実させたい。

31) 保健統計学 1年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、原口昌宏

(2) 教育内容

研究論文の講読や分析の実施において必要な統計学の基本的な性質や考え方を理解し、統計ソフトを用いたデータ分析の統計手法を学ぶことを主な目標とした。基本的な統計解析についてグループで調べ発表とディスカッション形式で一部展開した。既存の演習データを用いて、単変量解析および回帰分析について統計ソフトの実践演習も実施した。今後は、ディスカッションがより活発になるような授業内容・環境の構築が必要である。

32) 研究特論 1年次前期

(1) 担当教員 手島 恵、小野孝二、田中留伊、竹内朋子、上國料美香、浦中桂一、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

33) EBPM 探究論 1年次前期

(1) 担当教員 朝澤 恭子、佐藤いずみ、戸津有美子、小嶋奈都子

(2) 教育内容

周産期女性の問題・疑問を定式化し、最適な文献を検索し、PICOを用いて批判的吟味を行った。助産領域のRCT論文を用いてPICO、ランダム割り付け、ベースラインの同等確認、Outcomeへの反映、ITT解析、脱落率、マスキング、結果の評価といった手順でクリティークを行い、エビデンスに基づいた結果の理解と批判的吟味を修得した。

34) 高度実践助産学研究 1～2年次通年

(1) 担当教員 渡邊香、朝澤恭子、佐藤いずみ、戸津有美子、小嶋奈都子

(2) 教育内容

一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆、発表会においては抄録やスライドの準備を行い、成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

【研究】

1. 課題研究

高度実践助産学研究：高度実践助産コース（助産師免許取得コース）

学生	指導教員	研究課題
KG124001	朝澤 恭子	乳幼児を育児中の両親における育児休業取得経験状況とワーク・ファミリー・コンフリクトの関連：横断研究
KG124002	渡邊 香	育児・介護休業法改正後の母親の産後うつと父親の育児参加の関連：産後3、4か月における横断的研究
KG124003	朝澤 恭子	就労妊婦における職場のサポートと抑うつの関連：横断研究
KG124004	渡邊 香	専門的サポートと産後3、4か月の母親のメンタルヘルスの関連：横断的観察研究
KG124005	渡邊 香	昭和30年代の助産活動における観察の視点と技術から検討する助産師の自律性
KG124006	渡邊 香	日本人女性における産後の身体的健康に関するスコopingレビュー
KG124007	渡邊 香	無痛分娩選択理由に関する混合研究法による検討

【高度実践公衆衛生看護コース】

1. 教育方針

本コースでは、理論や実践等を通して、複雑多様化している健康課題や健康危機に対応できる能力を養う。また地域特性を的確に把握し、ヘルスリテラシーやソーシャル・キャピタル等が高められる保健師育成を目指す。

2. 科目名

1) 公衆衛生看護学概論 1年次前期

(1) 担当教員 岸恵美子、駒田真由子

(2) 教育内容

公衆衛生看護学の基本的な考え方および地域における看護活動の場と必要性について理解するとともに、保健師という職種に対する理解と関心を醸成しそのあり方を探求することを目的とした。講義は、公衆衛生看護の活動理念や歴史的背景を踏まえ、その活動が職業倫理を前提に法律や政策、理論等に基づいている内容とした。

次年度は、公衆衛生看護活動のあり方が探求できるよう、学生が主体的に保健師活動を考察できるよう、演習を通して学ぶことができるよう展開する予定である。

2) コミュニティアセスメント論 1年次前期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

地域診断に用いる理論の理解と現状の課題把握をするとともに、コミュニティーアズパートナーモデルを用い、地域診断の基本および方法を学ぶことを目的とした。保健師活動に必要とされる地域住民の健康や生活状況等、潜在・顕在的なニーズを把握するための情報収集、アセスメント・分析、課題の明確化と課題解決方法などを中心に講義および一部地区踏査に係る演習を行った。次年度はより、本科目とコミュニティアセスメント演習の科目間の連携を充実させる。

3) 公衆衛生看護活動論 1年次前期

(1) 担当教員 岸恵美子、駒田真由子

(2) 教育内容

地域で生活する個人・家族・集団などの様々な対象者への支援方法（相談面接、家庭訪問等）について援用できる理論を用い、演習を通して理解を深めることを目的とした。今年度は4か月、1歳6か月、3歳の健康診査の問診場面を想定しロールプレイを行った。

次年度は新生児訪問やハイリスク母子事例についての相談・訪問の展開演習を含めていきたい。

4) 地域成人・高齢者保健論 1年次前期

(1) 担当教員 岸恵美子

(2) 教育内容

地域で生活する成人、高齢者の個人・家族・集団への支援について、施策の変遷を通してその必要性を学び、事例等を用いながら支援の実際について学ぶことを目的とした。特定健診・特定保健指導の事例について、ロールプレイを行い実践的に学ぶ内容とした。

次年度は今年度の実習における当該科目内容過不足を検証しながら講義内容の改善を図りたい。

5) 地域精神保健論 1年次前期

(1) 担当教員 岸恵美子

(2) 教育内容

地域における精神障害のある人々への支援方法（相談面接、家庭訪問、ピア活動等）について援用できる理論を用い、演習を通して理解を深めることを目的とした。ペーパー事例は相談面接から初回訪問までをロールプレイを通して学んだ。また現行の施策の動向を踏まえながら地域定着および包括的マネジメントについて理解を深めた。

次年度は今年度同様演習を中心に科目の充実を図りたい。

6) 公衆衛生危機管理論 1年次前期

(1) 担当教員 岸恵美子

(2) 教育内容

自然災害や新興・再興感染症対策に関する法制度や動向について理解し、保健師としての役割、支援方法を学んでもらうことを目的に講義・演習を行った。災害時、新興感染症の流行時、虐待等をテーマとして、健康危機管理のシステムや対象者への支援方法について実践的に学ぶ内容とした。次年度も保健師を取り巻く状況の変化を考慮しつつ、学ぶ範囲を広げていきたい。

7) 住まいづくり論 1年次前期

(1) 担当教員 岸恵美子

(2) 教育内容

WHO や健康日本 21（第二次）において着目されている環境に焦点を当てた健康増進・疾病予防のための住環境の視点や方策を得ることを目的とした。見取り図を用いた住環境のアセスメントを通して、健康と住まいについて、ミクロ・マクロ的観点について理解を深めた。次年度は健康と住まいとの関連について、より最新の知見を踏まえた講義としていきたい。

8) 健康教育方法論 1年次前期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

健康行動に関する理論について歴史的な理論の改変や、新しい理論に至るまで、対象者の自己効力感を効果的かつ持続的に高めるための各種教育スキルを提供した。

次年度も、新たな健康教育の事例を交えて、実践的により現場的視点を涵養できるように工夫していきたい。

9) 疾病予防看護学特論・自立支援教育特論 I 1年次 通年

(1) 担当教員 明石眞言

(2) 教育内容

海外の原著研究論文を自ら辞書をひき触れることで、研究論文の構造、内容の理解を深めることを目的とし、研究論文の紹介と内容の議論を行う授業である。学生が自分の能力に合わせて読み、プレゼン資料を作成、内容の理解に努めつつ論文紹介を行ってもらった。研究の構造やデザイン、分析など総合的に研究力を学ぶ機会となった。次年度以降も学生の能力に合わせて到達レベルを考慮しながら継続的に実施していく。

10) 自立支援教育特論演習 I 1年次前期

(1) 担当教員 駒田真由子、岸恵美子

(2) 教育内容

住民のヘルスリテラシーを高め、地域のソーシャル・キャピタルを高めるためのアプローチについて実践的に理解を深めることを目的とした。区内社会福祉協議会の協力を得、住民の支えあい活動の場への継続的参加を通して健康に対する意識などを把握し介入方法について検討し、実際の住民への健康情報の提供等を実践した。

次年度も社会福祉協議会と連携し、他職種の理解を深めつつ、地域住民の健康へのアプローチについて実践的に学ぶ機会を提供する予定である。

11) 公衆衛生関連法規 1年次後期

(1) 担当教員 明石眞言

(2) 教育内容

日本国憲法を始めとして、公衆衛生看護の分野に関連した法律や法制度について、歴史的な経緯及び社会状況等を踏まえながら、保健師として地域づくりを推進するために必要な法制度に関する知識を深めた。授業は一定の枠組みに基づき、プレゼンテーションとディスカッションによるアクティブラーニングとし、最終的に保健医療福祉の法制度全体を俯瞰できるよう図表の作成を試みた。次年度もアクティブラーニングの実施に取り組む。

12) 行政論 1年次後期

(1) 担当教員 非常勤講師

(2) 教育内容

公衆衛生看護を实践する基盤である行政の仕組みについて、地方自治制度や財政制度について学習し、将来の公衆衛生看護に係る政策形成へ参与できる能力を養うことを目的としている。ニューパブリックマネジメント等の政策立案の理論動向や行政計画論、住民参加と公務員の役割についても概説し、実際に政策の作り方を演習として実施した。次年度も住民に寄り添える保健師の能力開発を目指し、アクティブラーニングを実施していく。

13) 産業保健学 1年次後期

(1) 担当教員 明石眞言

(2) 教育内容

産業の場で就労している対象の状況を理解し、健康増進のための活動や起こりうる健康障害を予見し対応できる産業保健活動の基礎知識と技術を習得することを目的に講義を行った。労働基準法に労働安全衛生法に関しては重点的に行った。

現在講義中心となっているため、次年度は演習も取り入れた授業展開を行っていききたい。

14) 学校保健学 1年次後期

(1) 担当教員 岸恵美子、永井智子

(2) 教育内容

教育の場であり、生活の場である学校において、対象となる児童、生徒等の発達段階を理解し、健康の保持増進のための活動を理解することを目的に講義・演習を行った。

演習では、学生が自身の関心のある学校保健における課題を選択し、情報収集とプレゼンテーションを行った。また、養護教諭の活動の実際について、事例検討を行った。

次年度も学生が対象特性に応じた学校保健活動の実際を理解できるように講義・演習内容を検討していく。

15) 医療保健疫学 1年時後期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

集団の疾病や健康現象を頻度と分布により評価するために必要な疫学の基礎を学び、公衆衛生看護の实践や公衆衛生看護研究において疫学の考え方、手法の理解を促す目的で講義を行った。学生は研究のデザインやバイアス、交互作用の考え方を具体的事例とともに学ぶ機会となった。次年度以降も、学生が疫学的思考を身につけられるような授業展開をしていきたい。

16) 医療保健疫学演習 1年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

医療保健疫学を学習後に疫学の知識を応用し、研究デザインや交絡因子の調整方法について専門の教科書の輪読を通して理解を深めた。公衆衛生看護研究の実践に応用できる能力を養う目的で行った。講義実施時期の後期後半は、学生は統計や疫学などの講義を受けて研究デザイン、分析方法の理解が深まる時期であるため、次年度も学生の理解度や能力に合わせて、講義・解説をしつつ学生の資料作成、発表、質疑応答が活発に行える環境を整えたい。

17) 国際保健学 1 年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子、森山潤

(2) 教育内容

国際保健政策についての理解を促し、国際機関の状況・国際保健の担い手に関する講義をしたうえで、実際の国際保健活動について臨場感のある講義を提供することを目指した。次年度も、引き続き SDG s について学び保健師の視点からの国際保健という点を考慮しつつ、国際保健分野の状況の変化に対応した講義を展開していく。

18) コミュニティアセスメント演習 1 年次後期

(1) 担当教員 岸恵美子、永井智子

(2) 教育内容

コミュニティアセスメント論で学んだ知識、技術を応用して地域診断を実施した。公衆衛生看護学実習 I を行う施設の所在地である自治体を、国や自治体のホームページや資料を参考に、統計的データを収集した。また、地区踏査を計画し、五感を使って地域の質的データを収集した。これらのデータをもとに、地域住民の健康にかかわる問題・課題とその要因を分析し、地域の生活や健康課題を解決するための活動計画とその評価、施策化の視点を学習した。また、実習 I で住民を対象に実施する健康教育の展開案を作成した。次年度は、地域診断や健康教育の項目や様式を検討するとともに、課題の指導を丁寧に行い、課題の内容を充実させていく。

19) 公衆衛生看護学実習 I 1 年次後期

(1) 担当教員 岸恵美子、永井智子、駒田真由子

(2) 教育内容

今年度より、目黒区保健所で実習を行った。地域診断から抽出された健康課題を把握し、住民の健康の保持増進に向けた保健師の活動の実際を学ぶことを目的に実習を行った。保健所等で取り組まれている事業（施策化も含む）への参加や、個人・家族・集団の支援の展開を学び、多様な人々の健康レベルに応じた保健活動を行う保健師の責務や姿勢について考察した。また、住民を対象に健康教育を実施し、対象者の特徴に合わせた支援方法の実際を学んだ。次年度も保健所の実習指導者と連携し、事前準備も含めた実習の調整を行っていく。

20) 公衆衛生看護学実習Ⅱ 1年次後期

(1) 担当教員 岸恵美子、永井智子

(2) 教育内容

職場における産業保健活動の実際と産業保健活動の仕組みや産業看護職の役割について実践的に学ぶことを目的とした。実習を行う企業の組織診断を実施し、組織のアセスメントと健康課題の抽出、健康課題の解決に向けた具体策を検討した。労働者・家族の特性を理解し、健康課題の把握と援助の方法、必要な連携・協働・ネットワークづくり・職場巡視等について理解することを目指した実習となった。

次年度も限られた時間で産業保健の実際が学べるように工夫をしていきたい。

21) 疾病予防看護学特論・自立支援教育特論Ⅱ 2年次 通年

(1) 担当教員 明石眞言

(2) 教育内容

海外研究論文に触れることで、研究論文の構造、内容の理解を深めることを目的とし、研究論文の紹介と内容の議論を行う授業である。学生が自分の能力に合わせて和訳を行い、資料を作成、内容の理解に努めつつ論文紹介を行ってもらった。研究の構造やデザイン、分析など総合的に研究力を学ぶ機会となった。次年度以降も学生の能力に合わせて到達レベルを考慮しながら継続的に実施していく。

22) 自立支援教育特論演習Ⅱ 2年次前期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

前半は、ひがしが丘保健室便りの作成を通じて、保健事業のプランニング、コーディネーション、マネジメントの能力の一端を養うことを目的とした。今年度も200人程の近隣住民に配布した。アンケートによるフィードバックもあり学生には今後につなげるよい学びとなった。後半は1年生とともに地域高齢者に健康情報の提供を行う演習を行った。M2生は2年目であり指導的立場で関わっていた。次年度も引き続き、科目で設定した目標が達成できるように演習を計画的に行っていきたい。

23) 地域包括ケア実習 2年次前期

(1) 担当教員 駒田真由子、岸恵美子

(2) 教育内容

地域包括支援センターでの実習を通して、訪問や事業に参加させていただき、地域包括支援センターの役割とそこで働く保健師の役割を学び、地域特性に応じた地域包括ケアシステム構築のために必要な視点を考察した。次年度も引き続き、積極的関わりを促し、実習先と連携して

困難事例など発展的内容にも踏み込んで実習できるように工夫をしていきたい。

24) 地域診療所実習 2年前期

(1) 担当教員 駒田真由子、岸恵美子

(2) 教育内容

診療所での実習を通して、地域で療養生活をしている住民の現状を認識し、そこから地域医療で果たすべき保健師の役割を考察する目的で行った。クリニック以外でも訪問診療などに同行し、地域医療に携わる医師・看護職の仕事について理解ができていた。

次年度以降も、引き続き地域包括ケアシステムの中の診療所の役割や、保健師と診療所との連携について、イメージできるような実習を提供していきたい。

25) 地域母子保健学演習 1年次後期

(1) 担当教員 戸津有美子、駒田真由子、小嶋奈都子、浅井百合絵

(2) 教育内容

地域母子保健が抱える今日的課題についてグループワークを通して考え、地区診断により地域特性の理解、助産師・保健師として具体的な母子保健事業を考察することができた。妊産婦や乳幼児に対するアセスメントを通して、家庭訪問や保健指導、健康相談における支援の技術も身に付けることができた。

26) 保健統計学 1年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、原口昌宏

(2) 教育内容

研究論文の講読や分析の実施において必要な統計学の基本的な性質や考え方を理解し、統計ソフトを用いたデータ分析の統計手法を学ぶことを主な目標とした。基本的な統計解析についてグループで調べ発表とディスカッション形式で一部展開した。既存の演習データを用いて、単変量解析および回帰分析について統計ソフトの実践演習も実施した。今後は、ディスカッションがより活発になるような授業内容・環境の構築が必要である。

27) 保健医療福祉システム特論 1年次後期

(1) 担当教員 岸恵美子、永井智子、非常勤講師

(2) 教育内容

保健医療福祉分野における法制度及び政策決定プロセスを学習するため、社会保障システムを主軸に様々な統計データを用いた学習を行った。これらの知識を踏まえ、学生が関心のあるテーマをグループで選定し保健医療福祉領域の政策提案・システムづくりに関するプレゼンテーションを実施した。上級実践看護（NP）コース、看護科学コース、と合同で行う授業であり、学生間の意見交換が活発化し、効果的な学習となった。次年度も学生の視野の拡大、思考

の深化を目指したい。

28) 医療倫理特論 1年次前期

(1) 担当教員 手島恵

(2) 教育内容

高度実践看護を提供する際に求められる倫理的実践の基盤として必要な知識を概説した。また、各コースの看護職が実践を行う中で直面した特徴的な事例を取り上げ、臨床倫理の4分割法等の理論を援用しながら検討・考察を行った。その上で、各自が実践の際に直面した倫理的課題を事例としてまとめ、コースごとの小グループで当事者や患者にとって最善の方策について検討し発表・共有を行った。次年度は各コースの専門的視点を活かした検討ができるよう工夫したい。

29) ラボラトリー・メソッド特論 1年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、明石眞言

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も、最新の科学研究で使用される手法について、その原理や利用方法などを概説し、生命現象について科学的に正しく理解できるように工夫する。

30) 地域母子保健学特論 1年次後期

(1) 担当教員 渡邊香、岸恵美子、福島富士子、小嶋奈都子、戸津有美子、浅井百合絵

(2) 教育内容

地域母子保健の現状と課題、母子保健に関わる地域診断、地域母子保健の活動の実際や産後ケアセンターの活動について講義を行った。加えて、学生が考える日本社会における母子保健の今日的課題について、現状とこれを解決するために必要だと思われる方策、地域での助産師や保健師助産師が地域で果たすべき役割について、討論し学習を深めた。

31) 研究特論 1年次前期

(1) 担当教員 手島恵、小野孝二、田中留伊、竹内朋子、上國料美香、浦中桂一、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する

基本的な手法について習得できた。

32) 高度実践公衆衛生看護学研究 1年～2年次通年

(1) 担当教員 岸恵美子 明石眞言 駒田真由子

(2) 教育内容

院生が関心のある個別の研究課題について文献検討をし、研究目的を明確にした後で研究計画の大枠を立案、1年後期に中間発表を行う準備・実施の支援を行った。その後は研究目的に従って具体的な研究方法を検討し、倫理申請を行っている。各授業・実習と両立しながら、個別の課題について明らかにするためにデータ分析・解釈を行い課題研究発表会でプレゼンを行った。

33) 課題研究 1～2年次通年

学生	指導教員	研究課題
KG424001	明石教授	外国人介護人材のメンタルヘルスに関する研究
KG425002	明石教授	看護学生の主観的健康感と客観的健康の乖離に関する研究
KG425003	岸教授	知的障がい者の保護者の養育・介護負担感に関連する要因

【看護科学コース（看護管理者プログラム）】

1. 教育方針

本プログラムは、看護管理上の課題に対してエビデンスに基づいて体系的に問題解決する能力、ならびにエビデンスを創出する研究能力を養成し、さらには病院経営や政策提言にも参画できる高度なマネジメント能力を持つ看護管理者の育成を目指している。

2. 科目名

1) 組織管理学：1年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子、手島恵

(2) 教育内容

組織デザインと組織運営、組織における倫理に関する2部構成とし、いずれも講義をふまえたアクティブラーニングを実施した。第1部では理論にもとづいて組織分析し、組織開発・組織改革計画を立案する演習を取り入れた。第2部では、組織管理における看護管理者の役割をグローバルな観点からディスカッションした。

次年度も、アクティブラーニングを活用して組織管理を体系的に学習する講義を目指したい。

2) 看護管理学特論（人材管理）：1年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子、手島恵、山西文子

(2) 教育内容

看護管理者に必要な労使関連法規、人事システム、賃金体系等について発展的に学習し、人的資源を管理するうえで求められる看護管理者のコンピテンシー、リーダーシップ等について講義した。演習として、組織の人材管理について分析し、看護管理者としての役割と課題を抽出した。次年度も、履修生の看護管理者としての実績を活用して学習する講義を目指したい。

3) 看護管理学特論（資源管理） 1年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子、大橋純江

(2) 教育内容

今日の看護管理者に必須の知識である医療経済・経営学を学習し、看護管理者として病院経営に参画する重要性を認識できるような講義を実施した。演習として、財務管理・マーケティング分析にもとづいて経営戦略を立案した。次年度も、看護管理者としての視野の拡大につながるような講義を目指したい。

4) 看護管理学特論（質管理） 1年次前期

(1) 担当教員 山西文子・中島美津子

(2) 教育内容

看護の質管理、組織の安全管理の2部構成とし、第1部では看護の質管理に関する現状と課

題について、第2部では医療安全に関する関連法規やガイドライン、感染管理、災害医療体制を含む看護組織の安全管理に関して講義した。前者は中島教授により、現在の医療施設の質の評価はどのような法律で守られどどのように管理されているか外国の場合も含めて教授された。2部では、医療安全、感染管理、災害時の対応等について、患者、職員、建物・物資等の管理に関して最低限の知識の確認をした。次年度も、看護管理者として組織の医療安全文化の醸成に貢献できるような講義を目指すことは、医療の質保証のために重要である。

5) 特別研究 1-2年次通年

(1) 担当教員 福島富士子

(2) 教育内容

修士論文の作成を目的として、ゼミナール形式による研究指導を行った。また、セメスターごとの中間発表会や複数教員による指導機会を設け、研究内容の深化を図った。あわせて、1年次においては、研究課題領域に関する文献検討を通じて研究課題の明確化を図るとともに、具体的な研究計画の立案に関する指導を行った。2年次においては、データ分析および論文執筆に係る個別指導を行い、修士論文2編の完成に至った。

次年度も、看護管理者としての研究能力の向上ならびに特別研究論文として看護管理学における有益な研究成果の創出を目指す。

学籍番号	指導教員	研究課題
KG524001	福島富士子	看護部理念浸透と経営意識の関連－国立病院機構の看護師長を対象に－
KG524002	福島富士子	配置転換の経験と看護師のキャリア自律意識との関連

6) 研究特論 1年次前期

(1) 担当教員

手島 恵、小野孝二、田中留伊、竹内朋子、上國料美香、浦中桂一、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

7) 看護理論 1年次前期

(1) 担当教員 高橋智子

(2) 教育内容

看護学の発展過程において看護理論がどのように形成・発展してきたかを概観し、理論評価の枠組みを用いて主要な看護理論の特徴と限界を検討した。さらに、自身の経験と照らし合わ

せ、看護実践・教育・研究における理論の適用と課題について、精選した事例をもとに学生がプレゼンテーションを行い、討議を踏まえてレポートとしてまとめた。次年度は事例の精選と理論評価内容のさらなる充実を課題としたい。

8) 医療倫理特論 1年次前期

(1) 担当教員 手島恵

(2) 教育内容

高度実践看護を提供する際に求められる倫理的実践の基盤として必要な知識を概説した。また、各コースの看護職が実践を行う中で直面した特徴的な事例を取り上げ、臨床倫理の4分割法等の理論を援用しながら検討・考察を行った。その上で、各自が実践の際に直面した倫理的課題を事例としてまとめ、コースごとの小グループで当事者や患者にとって最善の方策について検討し発表・共有を行った。次年度は各コースの専門的視点を活かした検討ができるよう工夫したい。

9) 看護政策特論 1年次後期

(1) 担当教員 山西文子

(2) 教育内容

看護を取り巻く課題について明確にし、課題解決に向けた制度・政策プロセスについて学ぶことを目的としている。課題解決のための方法・プロセスを具体的に上げ、行政による解決プロセス、職能団体によるプロセス、議員による解決方法のプロセスの違いを学ぶ。学生は、臨床での経験を基に、各自政策課題・問題点を抽出させることから始め、プログラム評価の観点から政策化するために必要な情報収集及び整理、資源の活用、論理の構築について計画作成・発表・討議し検討教授した。学生の能力、経験等を踏まえた上で、実践知に結び付けられるよう教育内容・方法を吟味して勧めていくことが大切である。

10) ヘルスケアシステム特論 1年次後期

(1) 担当教員 岸恵美子、永井智子、非常勤講師

(2) 教育内容

保健医療福祉分野における法制度及び政策決定プロセスを学習するため、社会保障システムを主軸に様々な統計データを用いた学習を行った。これらの知識を踏まえ、学生が関心のあるテーマをグループで選定し保健医療福祉領域の政策提案・システムづくりに関するプレゼンテーションを実施した。上級実践看護(NP)コース、看護科学コース、と合同で行う授業であり、学生間の意見交換が活発化し、効果的な学習となった。次年度も学生の視野の拡大、思考の深化を目指したい。

11) 看護教育学特論 I 1年次前期

(1) 担当教員 上國料美香

(2) 教育内容

看護職者が教育的機能を果たす基盤となる教育学、看護教育学の知識の修得を目的とし、課題図書購読と学習の成果の発表、討議を中心とする演習形式の授業を行った。学生は、学習内容と看護実践者、看護管理者それぞれの経験を照らし合わせて理解を深めることができた。次年度は、学生が、課題図書の理解に直結するような目的的な討議ができるよう課題の提出を工夫した授業を展開したい。

12) 臨床看護学演習 I 1年次通年

(1) 担当教員 新山真奈美

(2) 教育内容

各院生の関心のある看護管理に関するテーマから、チュートリアル形式の **Problem-Based Learning** の演習を通して、看護管理における課題を明確にし、課題解決のための論理的思考力および実践力を修得できるように進めた。またフィールドワークも取り入れ、多角的な視点から課題を捉えることで、自己課題が明確となっていた。次年度も、院生の学修進度や意向に併せて効果的な学修となるように進めていく。

13) 保健統計学

(1) 担当教員 浦中桂一、原口昌宏

(2) 教育内容

研究論文の講読や分析の実施において必要な統計学の基本的な性質や考え方を理解し、統計ソフトを用いたデータ分析の統計手法を学ぶことを主な目標とした。基本的な統計解析についてグループで調べ発表とディスカッション形式で一部展開した。既存の演習データを用いて、単変量解析および回帰分析について統計ソフトの実践演習も実施した。今後は、ディスカッションがより活発になるような授業内容・環境の構築が必要である。

【看護科学コース（看護教育・研究者プログラム）】

1. 教育方針

本プログラムは、看護基礎教育や院内教育、看護実践における課題を科学的に探求する能力、エビデンスを創出する基礎的研究能力を備え、看護学の発展と人々の健康に貢献できる看護教育・研究者の育成を旨としている。

2. 科目名

1) 看護教育学特論Ⅰ 1年次前期

(1) 担当教員 上國料美香

(2) 教育内容

看護職者が教育的機能を果たす基盤となる教育学、看護教育学の基礎的知識の修得を目的とした。課題図書の見直しと学習成果の発表、看護実践者・看護管理者としての経験と学習内容の照合に基づく理解、および看護基礎教育・継続教育の在り方のディスカッションを組み合わせた演習形式の授業を行った。本科目は、看護教育学を理解する基盤となる科目であるため、次年度も学習内容への理解深化に直結する授業展開を課題としたい。

2) 看護教育学特論Ⅱ 1年次後期

(1) 担当教員 上國料美香

(2) 教育内容

看護教育学研究に取り組む研究者に必要な知識を深めるとともに、研究論文の見直しを通して看護教育学における代表的な研究方法や理論、概念、用語の基礎的知識の修得、および看護基礎・卒後・継続教育への活用を考察することを目的とした。看護教育学研究、および研究課題領域に関する学術論文の見直し、クリティークの成果の発表とディスカッションを組み合わせた演習形式の授業を行った。

3) 看護教育学特論Ⅲ 1年次後期

(1) 担当教員 上國料美香

(2) 教育内容

授業展開の基礎的知識、技術、態度の修得を目的とした。教育原理・方法の基礎知識の講義に加え、個々が自身の関心に基づいてテーマを設定し、看護基礎教育・継続教育に関わる授業設計を行い、模擬授業の実施と洗練、成果に対する相互評価を含むディスカッションを組み合わせた演習形式の授業を行った。また、看護職として教育的役割を果たすための課題を整理するレポートを設けた。

4) 看護教育学特論Ⅳ 2年次前期

(1) 担当教員 上國料美香

(2) 教育内容

看護基礎教育・継続教育展開の基盤となる成人を対象とした教育を支える基礎的理論の修得を目的とした。成人教育の原理に関する著書の講読とクリティーク、課題学習の成果の発表、成人教育の観点から教育的役割を担う者としての自己の課題などのディスカッションディスカッションを組み合わせた演習形式の授業を行った。

5) 看護教育学演習Ⅲ 2年次前期

(1) 担当教員 上國料美香

(2) 教育内容

カリキュラムの編成の実際に関する基礎的知識の修得、および看護基礎教育課程における授業計画の作成過程の理解を目的とした。看護教育学演習Ⅱの学習成果に基づき仮設大学の授業計画、指導案の作成とそれに基づく模擬授業の実施とその洗練、模擬授業と学習成果に対する相互評価、ディスカッションディスカッションを組み合わせた演習形式の授業を行った。

6) 看護教育学特別研究 1年次後期

(1) 担当教員 上國料美香

(2) 教育内容

看護研究に対する代表的な研究方法や理論、概念、用語の基礎的知識の修得、および諸外国の医療・看護の実際について理解を深めるとともに、自己の研究課題への示唆を得ることを目的とした。研究課題領域に関する学術論文（英語）の講読、およびクリティークの成果の発表とディスカッションを組み合わせた演習形式の授業を行った。

7) 特別研究 1・2年次通年

(1) 担当教員 上國料美香

(2) 教育内容

修士論文の作成を目的として、ゼミナール形式による研究指導を行った。また、セメスターごとの中間発表会や複数教員による指導機会を設け、研究内容の深化を図った。あわせて、データ分析および論文執筆に係る個別指導を行い、修士論文2編の完成に至った。今後も、研究課題を科学的に探究し、その成果を論文として体系的にまとめる能力の育成に資する指導の充実に努める。

学籍番号	指導教員	研究課題
KG 324001	上國料美香	看護学実習における教員間の連携行動ー担当教員に焦点を当ててー
KG 324003	上國料美香	看護師間コミュニケーション力の現状および心理的安全性との関連

8) 看護理論 1年次前期

(1) 担当教員 高橋智子

(2) 教育内容

看護学の発展過程において看護理論がどのように形成・発展してきたかを概観し、理論評価の枠組みを用いて主要な看護理論の特徴と限界を検討した。さらに、自身の経験と照らし合わせ、看護実践・教育・研究における理論の適用と課題について、精選した事例をもとに学生がプレゼンテーションを行い、討議を踏まえてレポートとしてまとめた。次年度は事例の精選と理論評価内容のさらなる充実を課題としたい。

9) 保健統計学 1年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、原口昌宏

(2) 教育内容

研究論文の講読や分析の実施において必要な統計学の基本的な性質や考え方を理解し、統計ソフトを用いたデータ分析の統計手法を学ぶことを主な目標とした。基本的な統計解析についてグループで調べ発表とディスカッション形式で一部展開した。既存の演習データを用いて、単変量解析および回帰分析について統計ソフトの実践演習も実施した。今後は、ディスカッションがより活発になるような授業内容・環境の構築が必要である。

10) 医療倫理特論 1年次前期

(1) 担当教員 手島恵

(2) 教育内容

高度実践看護を提供する際に求められる倫理的実践の基盤として必要な知識を概説した。また、各コースの看護職が実践を行う中で直面した特徴的な事例を取り上げ、臨床倫理の4分割法等の理論を援用しながら検討・考察を行った。その上で、各自が実践の際に直面した倫理的課題を事例としてまとめ、コースごとの小グループで当事者や患者にとって最善の方策について検討し発表・共有を行った。次年度は各コースの専門的視点を活かした検討ができるよう工夫したい。

11) 看護政策特論 1年次後期

(1) 担当教員 山西文子

(2) 教育内容

看護を取り巻く課題について明確にし、課題解決に向けた制度・政策プロセスについて学ぶことを目的としている。課題解決のための方法・プロセスを具体的に上げ、行政による解決プロセス、職能団体によるプロセス、議員による解決方法のプロセスの違いを学ぶ。学生は、臨床での経験を基に、各自政策課題・問題点を抽出させることから始め、プログラム評価の観点から政策化するために必要な情報収集及び整理、資源の活用、論理の構築について計画作成・発

表・討議し検討教授した。学生の能力、経験等を踏まえた上で、実践知に結び付けられるよう教育内容・方法を吟味して勧めていくことが大切である。

12) 研究特論 1年次前期

(1) 担当教員 手島 恵、小野孝二、田中留伊、竹内朋子、上國料美香、浦中桂一、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

【博士課程】

1. 教育方針

看護学のさらなる進化および看護の一層の質の向上に「貢献できる教育研究者」を養成することを目的とする。看護、看護学の発展のためには、EBN に基づいた研究活動，教育活動，実践活動が必要である。博士論文の制作を通して、教育研究者として、エビデンスを「つくり」「つたえ」「つかう」プロセスを理解し、それぞれのプロセスにおいて積極的に取り組み、看護界が抱える課題を的確に抽出し、解決していくことができる能力を醸成する。

2. 科目

1) 看護管理学：1 年次通年

(1) 担当教員 竹内朋子、福島富士子

(2) 教育内容

看護管理学に関する文献検討やゼミナールを通して、看護管理を多角的にとらえ、独創的な研究課題に取り組むために必要な知識を身につけるとともに、研究技法についてクリティークを行った。また、特定の課題について、プレゼンテーションを行い、ディスカッションを行った。

2) 政策行政学：1 年次通年

(1) 担当教員 福島富士子

(2) 教育内容

政策行政学に関する文献検討やゼミナールを通して、政策行政を多角的にとらえ、独創的な研究課題に取り組むために必要な知識を身につけるとともに、研究技法についてクリティークを行った。また、特定の課題について、プレゼンテーションを行い、ディスカッションを行った。

3) 特別研究Ⅰ：1 年次通年

(1) 担当教員 竹内朋子、福島富士子、田中留伊、その他指導教員

(2) 教育内容

研究課題領域に関する文献検討やゼミナールを通して、研究課題を明確化し、具体的な研究計画を立案した。Semesterごとに中間発表会を開催し、研究テーマに関するレビューや研究計画について発表し、ディスカッションを通して研究内容を吟味した。次年度は、倫理審査を通し、研究計画を実施できるように勧めていく予定である。

3) 特別研究Ⅱ：2 年次通年

(1) 担当教員 田中留伊、竹内朋子、森千鶴、その他指導教員

(2) 教育内容

研究課題領域に関する文献検討やゼミナールを通して、研究課題を明確化し、具体的な研究計画を立案した。Semesterごとに中間発表会を開催し、研究テーマに関するレビューや研究

計画について発表し、ディスカッションを通して研究内容を吟味した。また、倫理審査を通して、研究計画を実施している。